



下水道モニター 平成 28 年度第 2 回アンケート結果

目次

1. 調査の概要	1
1.1. 調査の目的	1
1.2. 調査の対象	1
1.3. 調査の方法	1
1.4. 回答回収率	1
1.5. 調査の内容	1
1.6. 調査期間	1
1.7. 集計上・表記上への注意事項	1
2. 結果の概要	2
2.1. 下水道の浸水対策について	2
2.1.1. 下水道の浸水対策についての認識度	2
2.1.2. 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての理解度	2
2.1.3. 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての評価	2
2.1.4. 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての意見	2
2.1.5. 豪雨対策下水道緊急プランへの認知度	2
2.1.6. 豪雨対策下水道緊急プランの理解度	3
2.1.7. 豪雨対策下水道緊急プランの期待度	3
2.2. 家庭での浸水への対策	3
2.2.1. 「浸水対策強化月間」の認知度	3
2.2.2. 「浸水対策強化月間」の認知経路	3
2.2.3. ご家庭での浸水対策について	3
2.2.4. ご家庭での浸水対策の安全性	4
2.2.5. ご家庭での浸水対策の安全性に対する理由	4
2.3. 東京アメッシュについて	4
2.3.1. 東京アメッシュの利用方法	4
2.3.2. 東京アメッシュをスマートフォンで利用した場合	4
2.4. 下水道浸水対策の取組みに対する関心	4

3. 回答者属性	5
3.1. 回答者 性・年代	5
3.2. 回答者 居住地域	5
3.3. 回答者 職業	5
4. 集計結果	6
4.1. 下水道の浸水対策について	6
4.1.1. 下水道の浸水対策についての認識度	6
4.1.2. 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての理解度	13
4.1.3. 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての評価	16
4.1.4. 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての意見	23
4.1.5. 豪雨対策下水道緊急プランへの認知度	25
4.1.6. 豪雨対策下水道緊急プランの理解度	27
4.1.7. 豪雨対策下水道緊急プランの期待度	29
4.2. 家庭での浸水への対策	30
4.2.1. 浸水対策強化月間」の認知度	30
4.2.2. 浸水対策強化月間の認知経路	31
4.2.3. ご家庭での浸水対策について	34
4.2.4. ご家庭での浸水対策の安全性	38
4.2.5. ご家庭での浸水対策の安全性に対する理由	39
4.3. 東京アメッシュについて	46
4.3.1. 東京アメッシュの利用方法	46
4.3.2. 東京アメッシュをスマートフォンで利用した場合	48
4.4. 下水道浸水対策の取組みに対する関心	50

1. 調査の概要

1.1. 調査の目的

第2回アンケートでは、東京都下水道局の浸水対策、家庭での浸水対策等について、認知度、要望及び評価などを把握することを目的とした。

1.2. 調査の対象

- (1) 調査対象：東京都下水道局「平成28年度下水道モニター」
※東京都在住20歳以上の男女個人
- (2) 調査対象の数：792人
- (3) 調査対象の抽出：インターネット上から「平成28年度下水道モニター」を募集

1.3. 調査の方法

インターネットによる自記式アンケート

1.4. 回答回収率

モニター件数	：792件
回答者数	：600件
回答率	：75.8%

1.5. 調査の内容

- (1) 下水道の浸水対策
- (2) 家庭での浸水対策
- (3) 東京アメッシュについて
- (4) 下水道浸水対策の取り組みに対する関心

1.6. 調査期間

平成28年8月10日～同年8月29日

1.7. 集計上・表記上への注意事項

- (1) 集計表中の割合(%)は原則として小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。
- (2) 図表中の「n」は、質問に対する回答数で、集計母数を表す。

2. 結果の概要

2.1. 下水道の浸水対策について

2.1.1. 下水道の浸水対策についての認識度

全体で、「知っている（内容や意味を十分に知っている、内容や意味を少し知っている）」と回答したモニターは「3）雨水調整池の整備」が 52.8%で最も多く、次に「8）浸水予想区域図の公表」で 46.0%であった。逆に「5）枝線の増径」は 64.5%のモニターが「知らなかった」と回答した。

年代別で、「3）雨水調整池の整備」を「知っている」と回答したモニターのうち、60 歳代が 71.4%で最も多かった。

2.1.2. 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての理解度

全体で、「理解できた（良く理解できた、まあ理解できた）」と回答したモニターは「3）雨水調整池の整備」が 90.6%で最も多く、次に「2）ポンプ所の能力増強」が 90.3%で 9 割を超え理解度が高かった。

年代別で、「3）雨水調整池の整備」の「理解できた」と回答したモニターのうち、70 歳以上が 93.6%で最も多かった。また、20 歳代は下水道の浸水対策について「全く理解できなかった」の回答者が存在しなかった。

2.1.3. 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての評価

全体で、「有効である（極めて有効である、やや有効である）」と回答したモニターは「1）浸水対策の整備」が 92.6%で最も多く、次に「3）雨水調整池の整備」が 92.3%、「2）ポンプ所の能力増強」が 90.5%でこれらの対策は 9 割を超え、有効であると考えている。

年代別で、「1）浸水対策の整備」が「有効である」と回答したモニターのうち、20 歳代と 70 歳以上が 95.7%で最も多かった。

2.1.4. 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての意見

モニター全体の 92.9%が「そう思う（非常にそう思う、ややそう思う）」と回答した。

年代別で、「そう思う」と回答したモニターのうち、20 歳代が 82.6%で最も少なく、70 歳以上が 95.8%で最も多くなった。

また、20 歳代は「そう思わない（あまりそう思わない、まったくそう思わない）」と回答したモニターが存在しなかった。

2.1.5. 豪雨対策下水道緊急プランへの認知度

モニター全体の 9.7%が「知っていた」と回答し、認知度が低かった。

年代別で、「知っていた」と回答したモニターのうち、40 歳代が 6.7%で最も少なく、70 歳以上が 14.9%で最も多くなった。

また、30 歳代、40 歳代、50 歳代の 9 割が「知らなかった」と回答した。

2.1.6. 豪雨対策下水道緊急プランの理解度

モニター全体の 83.0%が「理解できた（とても理解できた、やや理解できた）」と回答した。
年代別で、「理解できた」と回答したモニターのうち、40 歳代が 75.6%で最も少なく、60 歳代が 88.2%で最も多くなった。
また、20 歳代、70 歳以上では「まったく理解できない」と回答したモニターが存在しなかった。

2.1.7. 豪雨対策下水道緊急プランの期待度

モニター全体の 87.3%が「有効である（極めて有効である、やや有効である）」と回答し、期待度が高かった。
年代別で、「有効である」と回答したモニターのうち、30 歳代が 83.2%で最も少なく、20 歳代が 91.3%で最も多くなった。
また、20 歳代は「有効でない（あまり有効でない、全く有効でない）」と回答したモニターが存在しなかった。

2.2. 家庭での浸水への対策

2.2.1. 浸水対策強化月間」の認知度

モニター全体の 22.3%が「内容や意味を知っている（内容や意味を知っている、少しは内容や意味を知っている）」と回答し、半数以上は、「知らなかった」と回答した。
年代別で、「内容や意味を知っている」と回答したモニターのうち、30 歳代が 15.0%で最も少なく、70 歳代以上が 32.0%で最も多くなった。
また、30 歳代の 70.8%が「知らなかった」と回答した。

2.2.2. 「浸水対策強化月間」の認知経路

「東京都や東京都下水道局の広報誌」の回答が最も多く、モニター全体の 27.5%であった。
「その他」を除けば、「ポスター」が最も低く 2.8%であった。
年代別で、「東京都や東京都下水道局の広報誌」と回答したモニターのうち、30 歳代が 15.0%で最も少なく、70 歳以上が 44.7%で最も多くなった。

2.2.3. ご家庭での浸水対策について

「ハザードマップなどで避難場所の確認をしている」の回答が最も多く、モニター全体の 39.7%であった。
年代別で、「その他」を除けば、「自宅に「土のう」や「止水板」を用意している」が最も低く 2.8%であった。
また、「ハザードマップなどで避難場所の確認をしている」と回答したモニターのうち、70 歳以上が 31.9%で最も少なく、40 歳代が 48.2%で最も多くなった。

2.2.4. ご家庭での浸水対策の安全性

モニター全体の 72.1%が「安全だと思う（安全だと思う、たぶん安全だと思う）」と回答した。

年代別で、「安全だと思う」と回答したモニターのうち、20 歳代が 52.2%で最も少なく、70 歳以上が 83.0%で最も多くなった。

2.2.5. ご家庭での浸水対策の安全性に対する理由

- (1) 安全だと思う（安全だと思う、たぶん安全だと思う）

「安全だと思う」と回答したモニターのうち、「高層階に居住」の回答が最も多く 35.8%で、次に「高台に居住」が 27.8%であった。

- (2) 安全ではないと思う（安全ではないと思う、あまり安全ではないと思う）

「安全ではないと思う」と回答したモニターのうち、その他を除くと「ゲリラ豪雨」の回答が最も多く 20.0%で、次に「川が近い」が 19.1%であった。

2.3. 東京アメッシュについて

2.3.1. 東京アメッシュの利用方法

「パソコン」の回答が最も多くモニター全体の 55.8%で、次に「スマートフォン」が 31.8%で、3 割のモニターが「東京アメッシュを利用したことがない」と回答した。

年代別で、「パソコン」と回答したモニターのうち、30 歳代が 41.6%で最も少なく、50 歳代が 66.4%で最も多くなった。

また、20 歳代の半数は「スマートフォン」を利用し、70 歳以上は「スマートフォン」より「タブレット」の利用の方が多かった。

2.3.2. 東京アメッシュをスマートフォンで利用した場合

「不便を感じなかった」の回答が最も多くモニター全体の 11.5%で、次に「操作ボタンが小さい」が 10.7%、「字が小さい」が 9.0%と続く。

年代別で、「不便を感じなかった」と回答したモニターのうち、70 歳以上が 2.1%で最も少なく、20 歳代が 21.7%で最も多くなった。

2.4. 下水道浸水対策の取組みに対する関心

モニター全体の 94.0%が「関心が高まった（非常に関心が高まった、やや関心が高まった）」と回答し、関心が高いことが見受けられた。

年代別で、「関心が高まった」と回答したモニターのうち、30 歳代が 88.5%で最も少なく、70 歳以上が 95.7%で最も多くなった。

3. 回答者属性

3.1. 回答者 性・年代

性別	年齢	回答者数(人)	モニター数(人)	回答率
男性	20歳代	10	15	66.7%
	30歳代	38	60	63.3%
	40歳代	76	99	76.8%
	50歳代	76	94	80.9%
	60歳代	84	91	92.3%
	70歳以上	35	44	79.5%
	小計	319	403	79.2%
女性	20歳代	13	36	36.1%
	30歳代	75	109	68.8%
	40歳代	88	120	73.3%
	50歳代	58	72	80.6%
	60歳代	35	35	100.0%
	70歳以上	12	17	70.6%
	小計	281	389	72.2%
合計		600	792	75.8%

3.2. 回答者 居住地域

地域	回答者数(人)	モニター数(人)	回答率
23区	362	477	75.9%
多摩地区	238	315	75.6%
合計	600	792	75.8%

3.3. 回答者 職業

職業	回答者数(人)	モニター数(人)	回答率
会社員	261	353	73.9%
自営業	44	53	83.0%
学生	5	7	71.4%
私立学校教員・塾講師	6	8	75.0%
パート	55	70	78.6%
アルバイト	12	18	66.7%
専業主婦	111	155	71.6%
無職	86	102	84.3%
その他	20	26	76.9%
合計	600	792	75.8%

Q1～4 では、回答者属性について聞いています。下水道の質問は、Q5 から始まります。

4. 集計結果

4.1. 下水道の浸水対策について

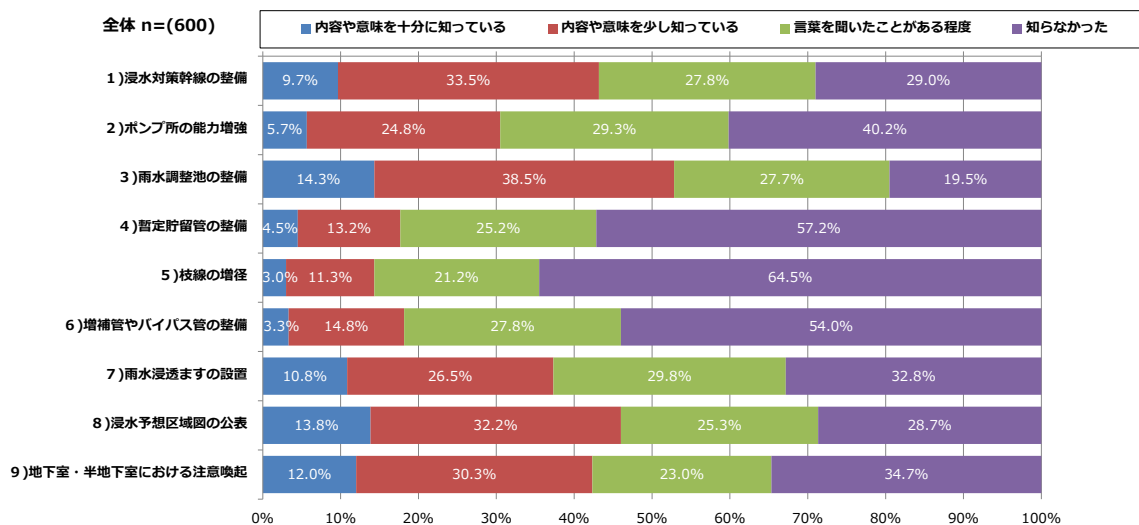
4.1.1. 下水道の浸水対策についての認識度

Q5.東京都下水道局が行っている浸水対策の取組についてうかがいます。以下のそれぞれの項目について、あなたはこのことをご存知でしたか？該当する選択肢を一つだけお選び下さい（単一回答）。

（１）全体

「内容や意味を十分に知っている」と回答したモニターは「３）雨水調整池の整備」が14.3%で最も多く、次に「８）浸水予想区域図の公表」で13.8%であった。最も低かったのは「５）枝線の増径」で3.0%、次に「６）増補管やバイパス管の整備」で3.3%、「４）暫定貯留管の整備」で4.5%の順位になりこれらは半数のモニターが「知らなかった」と回答した。

図 4.1.1(1) 下水道の浸水対策についての認識度（全体）

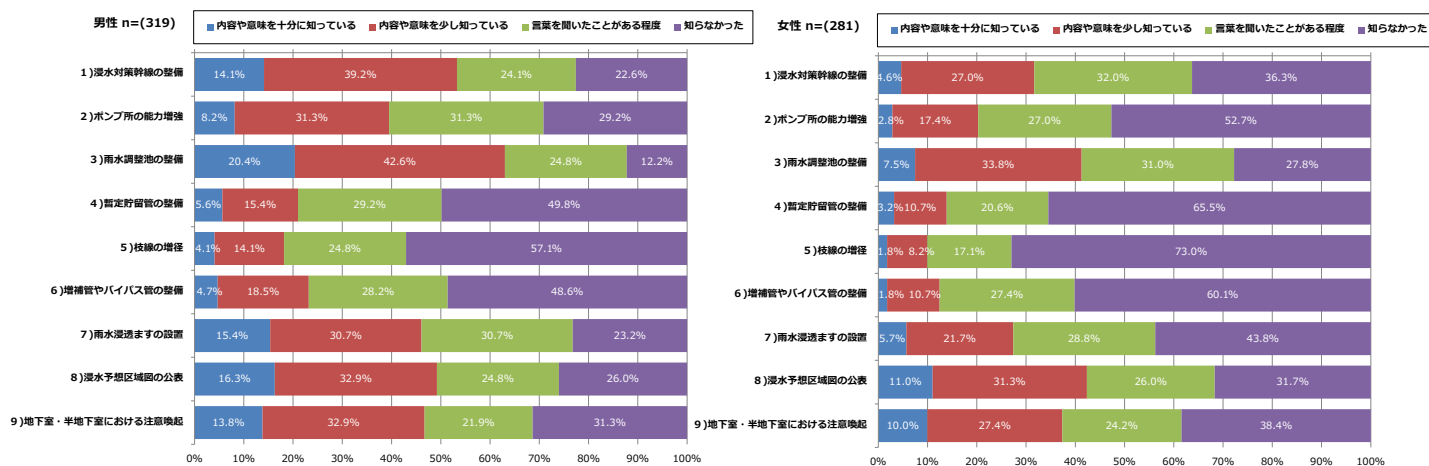


(2) 性別

「内容や意味を十分に知っている」と回答したなかで、男性は「3) 雨水調整池の整備」が20.4%、女性は「8) 浸水予想区域図の公表」が11.0%で最も多かった。

また、男性の57.1%、女性の73.0%が「5) 枝線の増径」を「知らなかった」と回答し、最も認識度が低かった。

図 4.1.1 (2) 下水道の浸水対策についての認知度（性別）

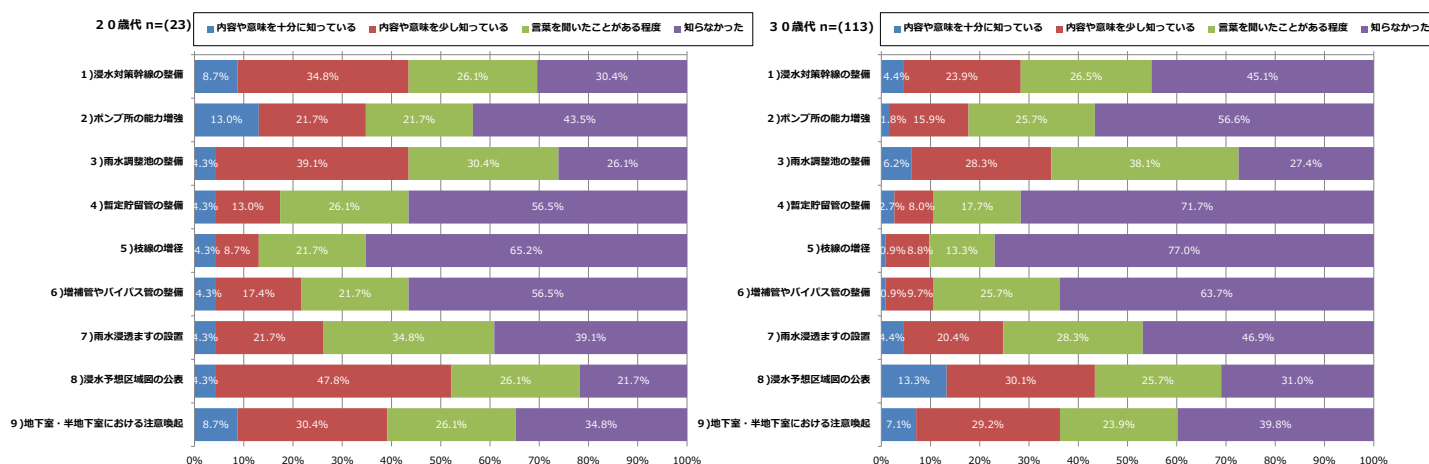


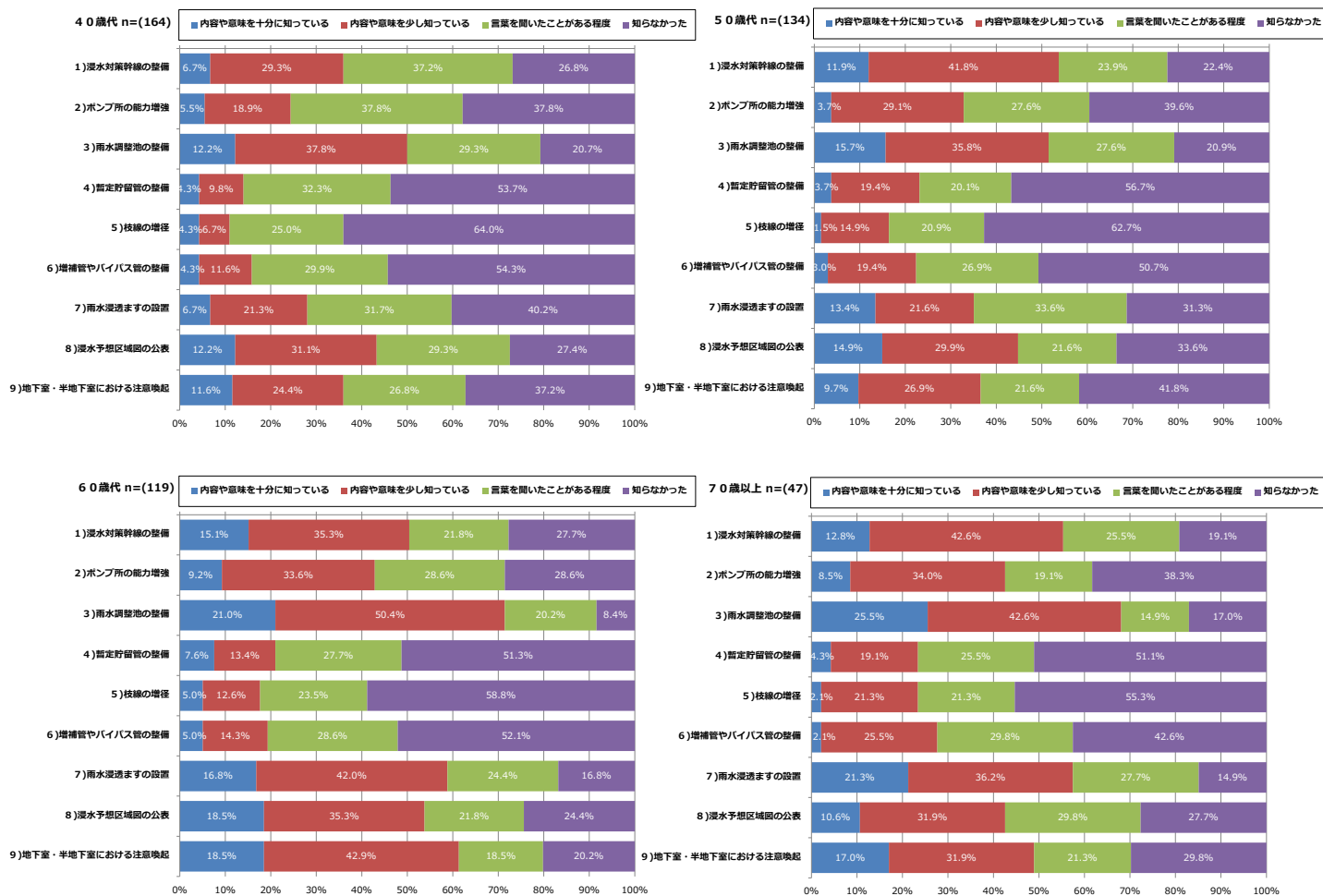
(3) 年代別

「内容や意味を十分に知っている」と回答したなかで、20 歳代は「2) ポンプ所の能力増強」が13.0%、30 歳代は「8) 浸水予想区域図の公表」が13.3%、40 歳代は「3) 雨水調整池の整備」と「8) 浸水予想区域図の公表」が12.2%、50 歳代は「8) 浸水予想区域図の公表」が14.9%、60 歳代は「3) 雨水調整池の整備」が21%、70 歳以上は「3) 雨水調整池の整備」が25.5%で最も多かった。

また、20 歳代の65.2%、30 歳代の77.0%、40 歳代の64.0%、50 歳代の62.7%、60 歳代の58.8%、70 歳以上の55.3%が「5) 枝線の増径」を「知らなかった」と回答し、最も認識度が低かった。

図 4.1.1 (3) 下水道の浸水対策についての認知度（年齢別）



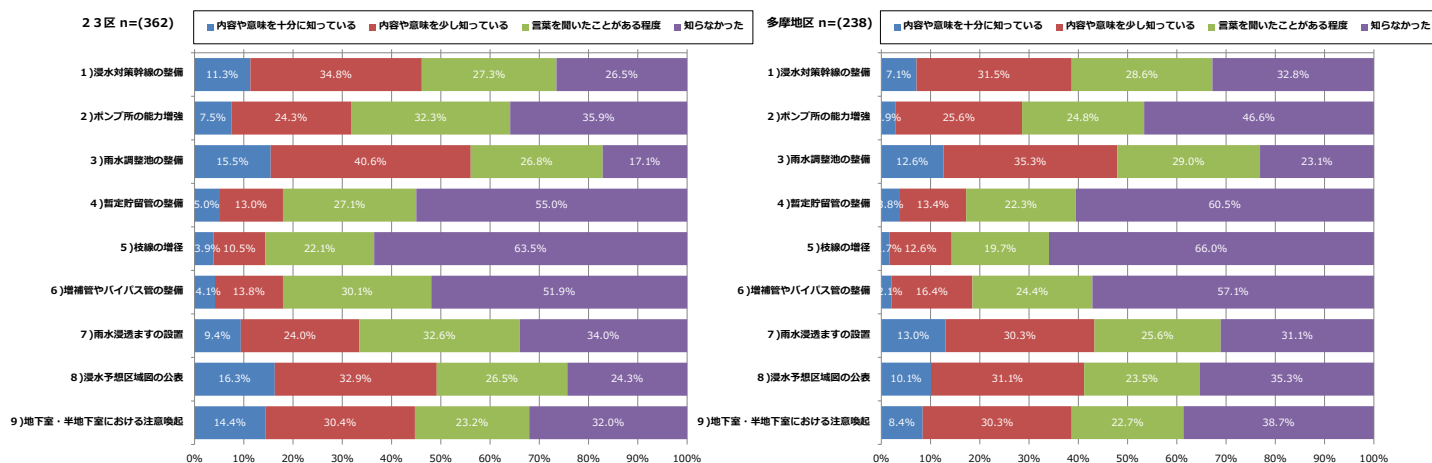


(4) 地域別

「内容や意味を十分に知っている」と回答したなかで、23区は「8) 浸水予想区域図の公表」が16.3%、多摩地区は「7) 雨水浸透ますの設置」が13.0%で最も多かった。

また、23区および多摩地区ともに「5) 枝線の増径」を「知らなかった」との回答が最も多く、23区で63.5%、多摩地区で66.0%となり認識度が低かった。

図 4.1.1(4) 下水道の浸水対策についての認知度（地域別）

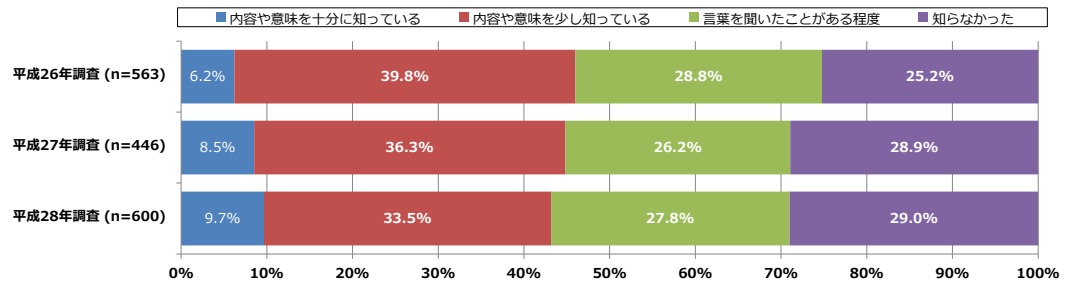


(5) 経年

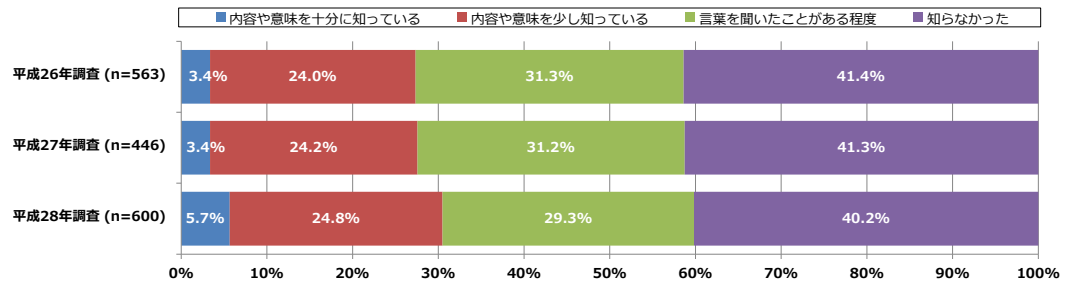
- 「1) 浸水対策幹線の整備」における認知度の経年変化をみると、「知っている（内容や意味を十分に知っている、内容や意味を少し知っている）」との回答は平成 28 年度調査では 43.2%であり、平成 27 年度と比較すると 1.6 ポイント低くなった。
- 「2) ポンプ所の能力増強」における認知度の経年変化をみると、「知っている（内容や意味を十分に知っている、内容や意味を少し知っている）」との回答は平成 28 年度調査では 30.5%であり、平成 27 年度と比較すると 2.9 ポイント高くなった。
- 「3) 雨水調整池の整備」における認知度の経年変化をみると、「知っている（内容や意味を十分に知っている、内容や意味を少し知っている）」との回答は平成 28 年度調査では 52.8%であり、平成 27 年度と比較すると 1.5 ポイント高くなった。
- 「4) 暫定貯留管の整備」における認知度の経年変化をみると、「知っている（内容や意味を十分に知っている、内容や意味を少し知っている）」との回答は平成 28 年度調査では 17.7%であり、平成 27 年度と比較すると 12.3 ポイント低くなった。
- 「5) 枝線の増径」における認知度の経年変化をみると、「知っている（内容や意味を十分に知っている、内容や意味を少し知っている）」との回答は平成 28 年度調査では 14.3%であり、平成 27 年度と比較すると 1 ポイント高くなった。
- 「6) 増補管やバイパス管の整備」における認知度の経年変化をみると、「知っている（内容や意味を十分に知っている、内容や意味を少し知っている）」との回答は平成 28 年度調査では 18.1%であり、平成 27 年度と比較すると 1.4 ポイント低くなった。
- 「7) 雨水浸透ますの設置」における認知度の経年変化をみると、「知っている（内容や意味を十分に知っている、内容や意味を少し知っている）」との回答は平成 28 年度調査では 37.3%であり、平成 27 年度と比較すると 5.9 ポイント低くなった。
- 「8) 浸水予想区域図の公表」における認知度の経年変化をみると、「知っている（内容や意味を十分に知っている、内容や意味を少し知っている）」との回答は平成 28 年度調査では 46.0%であり、平成 27 年度と比較すると 0.3 ポイント低くなった。
- 「9) 地下室・半地下室における注意喚起」における認知度の経年変化をみると、「知っている（内容や意味を十分に知っている、内容や意味を少し知っている）」との回答は平成 28 年度調査では 42.3%であり、平成 27 年度と比較すると 1.5 ポイント高くなった。

図 4.1.1 (5) 下水道の浸水対策についての認知度（経年）

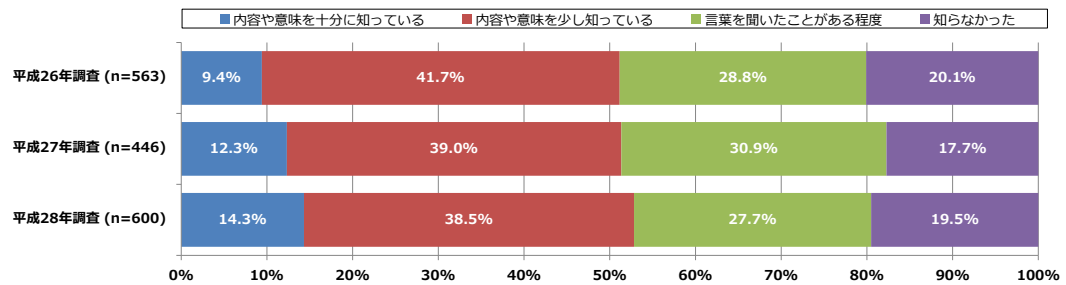
1) 浸水対策幹線の整備



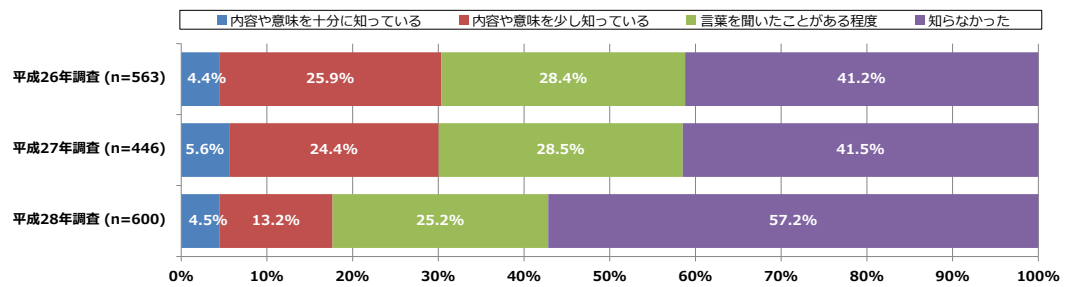
2) ポンプ所の能力増強



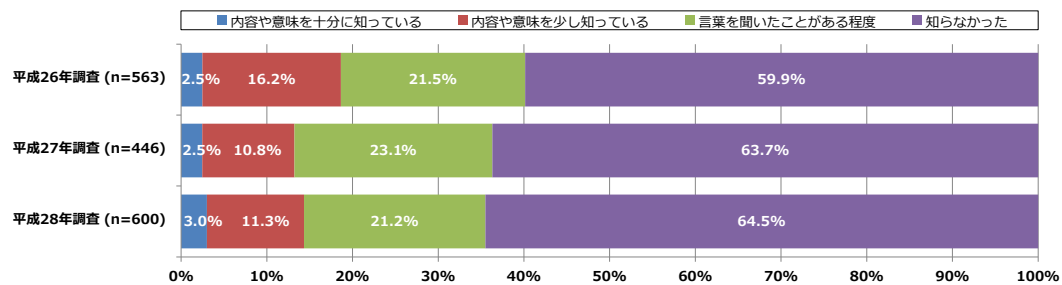
3) 雨水調整池の整備



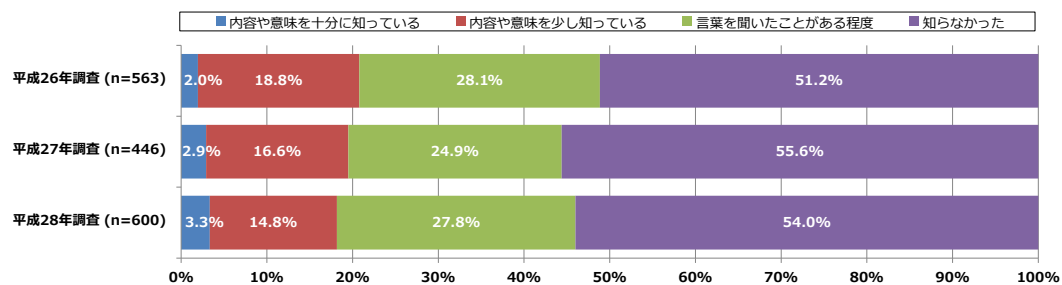
4) 暫定貯留管の整備



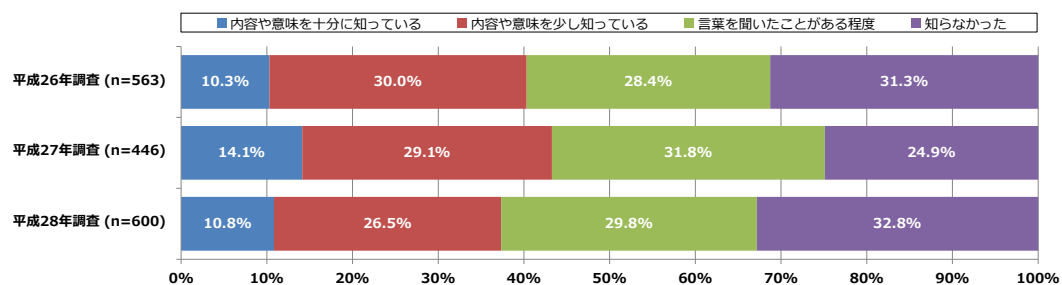
5) 枝線の増径



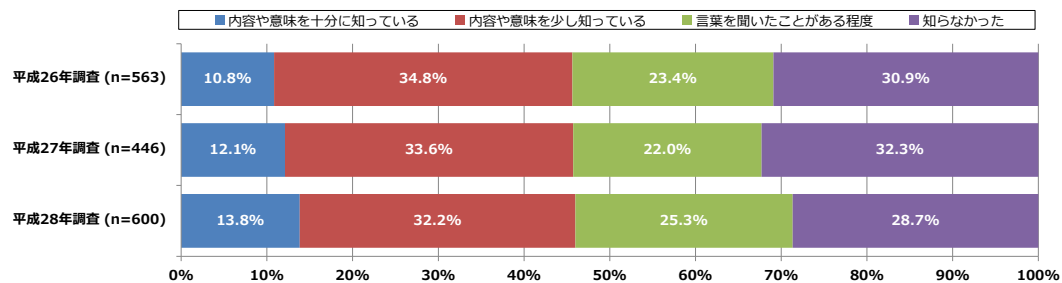
6) 増補管やバイパス管の整備



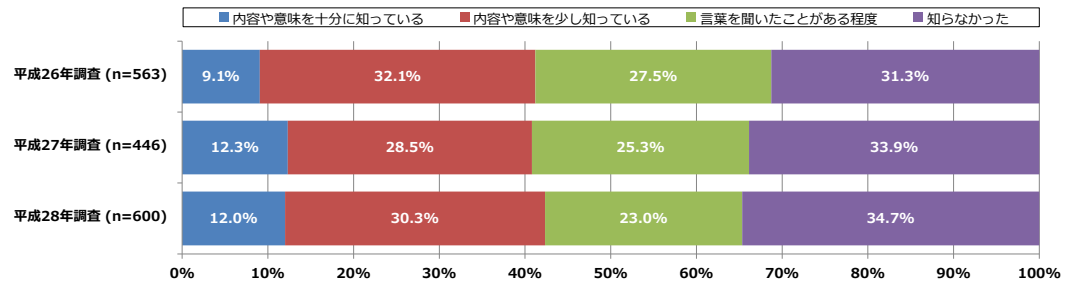
7) 雨水浸透ますの設置



8) 浸水予想区域図の公表



9) 地下室・半地下室における注意喚起



4.1.2. 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての理解度

Q6.水対策のイメージと具体策をご覧ください、以下に示す各取組について、それぞれ該当する選択肢を一つだけお選びいただき、あなたの理解度をお答えください。(単一回答)

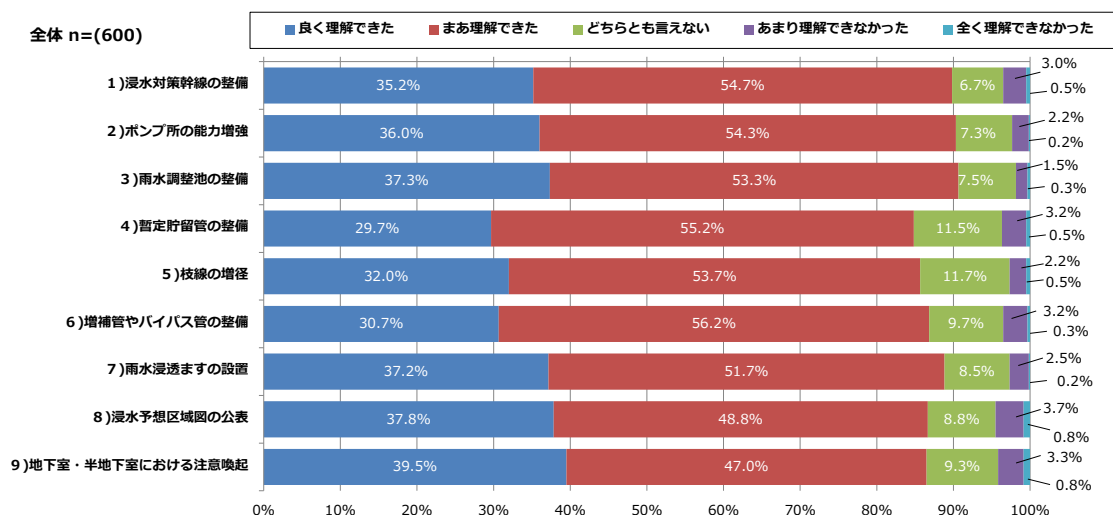
(1) 全体

「よく理解できた)」と回答したモニターは「9) 地下室・半地下室における注意喚起」が 37.8%で最も多く、次に「7) 雨水浸透ますの設置」が 37.2%であった。

最も低かったのは、「4) 暫定貯留管の整備」で 29.7%であった。

また、全ての浸水対策において 8 割以上のモニターが理解（よく理解できた、まあ理解できた）できた」と回答した。

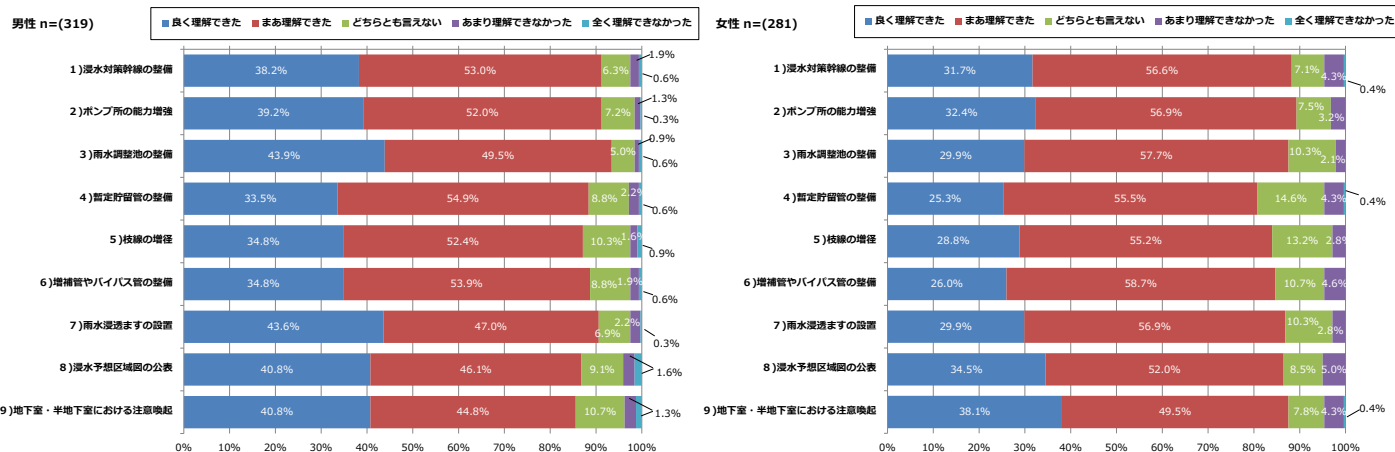
図 4.1.2(1) 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての理解度（全体）



(2) 性別

「良く理解できた」と回答したなかで、男性は「3) 雨水調整池の整備」が43.9%、女性は「9) 地下室・半地下室における注意喚起」が38.1%で最も多かった。

図 4.1.2(2) 下水道の浸水対策についての理解度（性別）

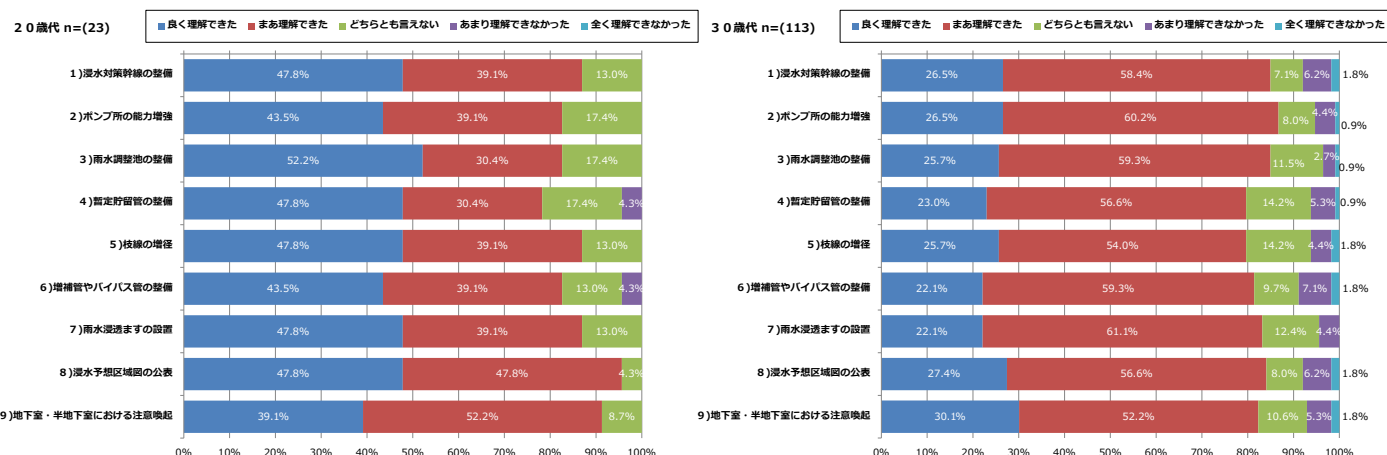


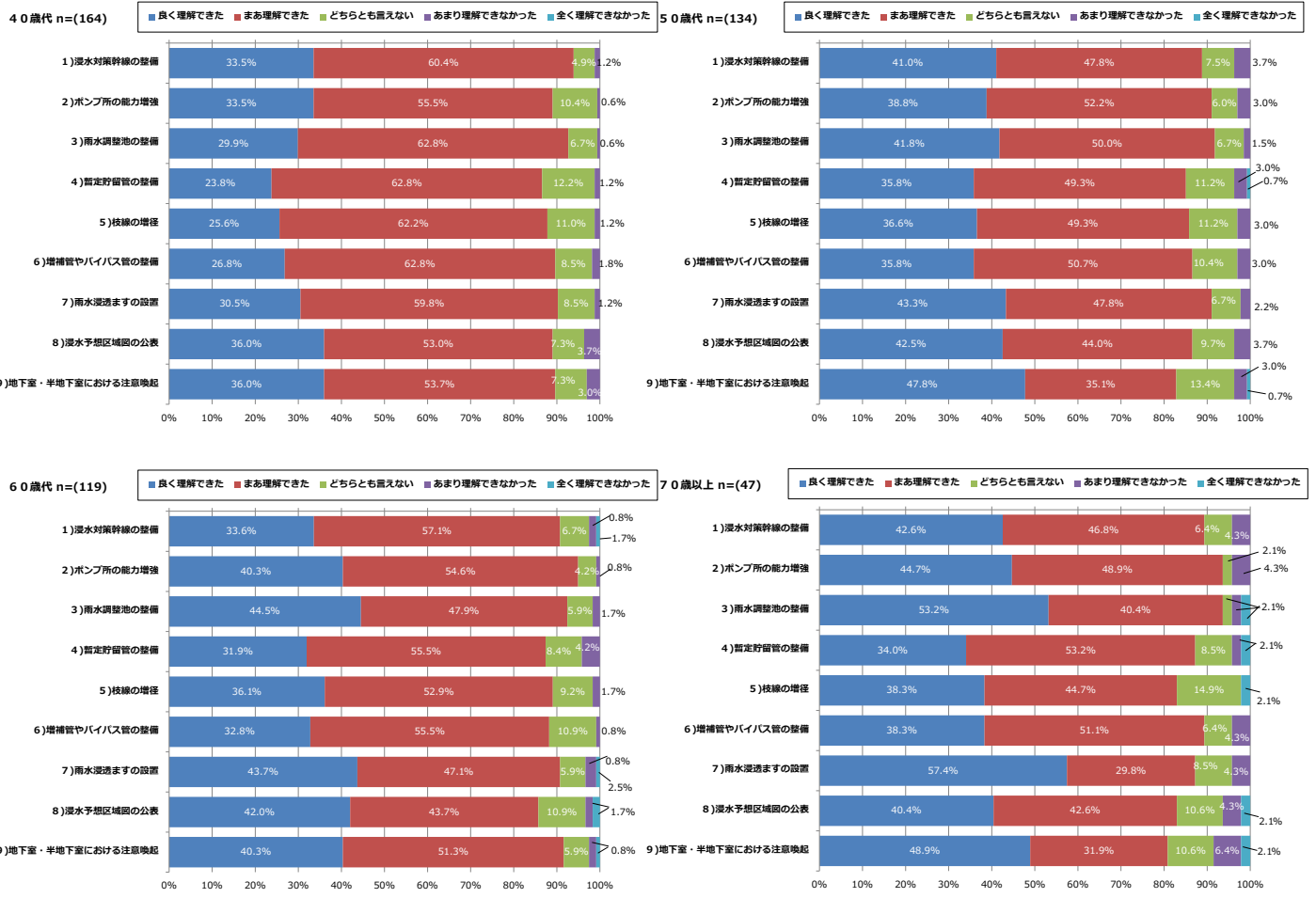
(3) 年代別

「良く理解できた」と回答したなかで、20歳代は「3) 雨水調整池の整備」が52.2%で最も多かった。

また、30歳代、40歳代、50歳代は「9) 地下室・半地下室における注意喚起」で30歳代が30.1%、40歳代が36.0%、50歳代が47.8%で、60歳代は「3) 雨水調整池の整備」が44.5%、70歳以上は「7) 雨水浸透ますの設置」が57.4%で最も多かった。

図 4.1.2(3) 下水道の浸水対策についての理解度（年齢別）

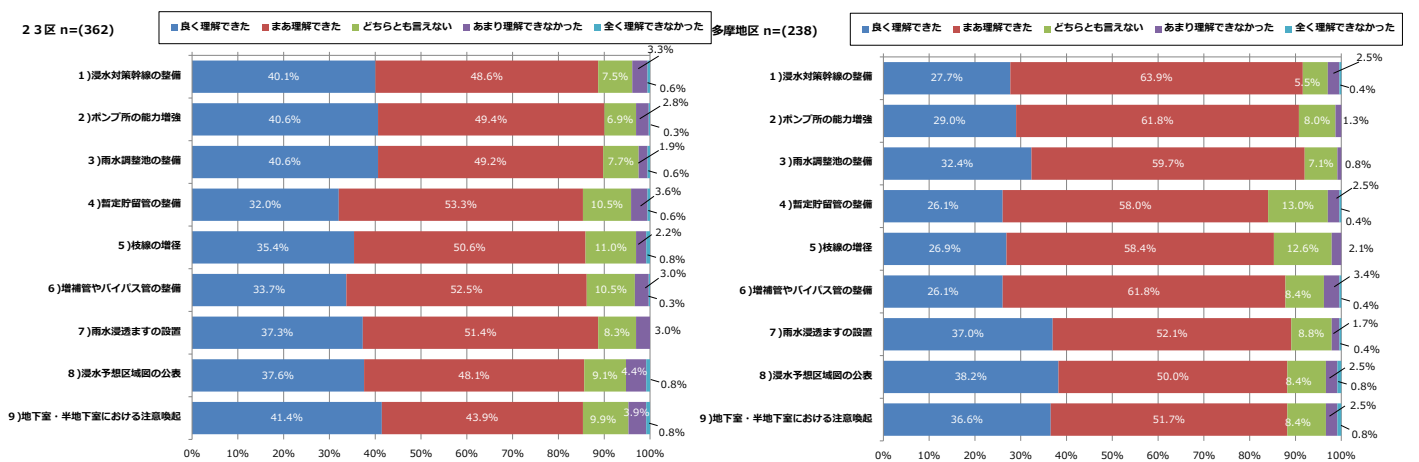




(4) 地域別

「良く理解できた」と回答したなかで、23区は「9) 地下室・半地下室における注意喚起」が41.4%、多摩地区は「8) 浸水予想区域図の公表」が38.2%で最も多かった。

図 4.1.2(4) 下水道の浸水対策についての理解度（地域別）



4.1.3. 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての評価

Q7.上記Q 6と同様に、以下に示す各取組について、浸水被害の軽減にどれほど有効であるか、それぞれ該当する選択肢を一つだけお選びいただき、あなたの評価をお答えください。(単一回答)

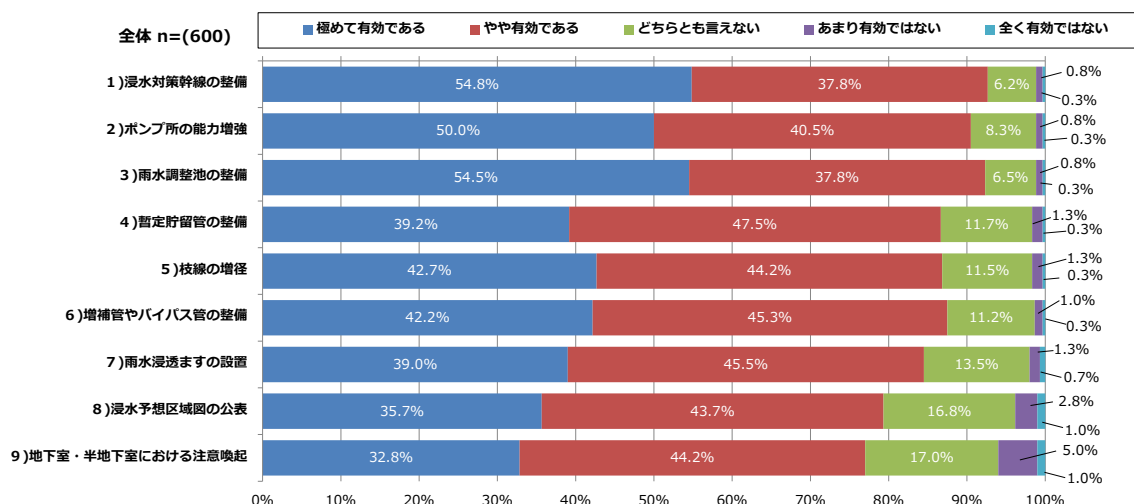
(1) 全体

「極めて有効である」と回答したモニターは「1) 浸水対策の整備」が 54.8%で最も多く、次に「3) 雨水調整池の整備」が 54.5%であった。

最も低かったのは、「9) 地下室・半地下室における注意喚起」で 32.8%であった。

また、全ての浸水対策において 7 割以上のモニターが有効であると回答した。

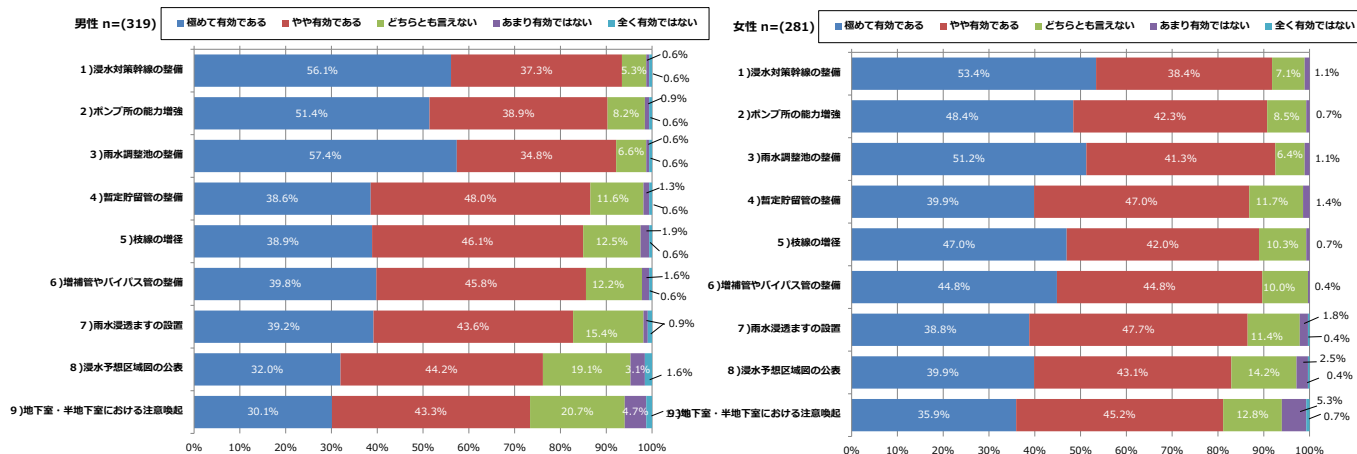
図 4.1.3(1) 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての評価（全体）



(2) 性別

「極めて有効である」と回答したなかで、男性が「3) 雨水調整池の整備」で 57.4%、女性が「1) 浸水対策幹線の整備」53.4%で半数を超えた。

図 4.1.3(2) 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての評価（性別）

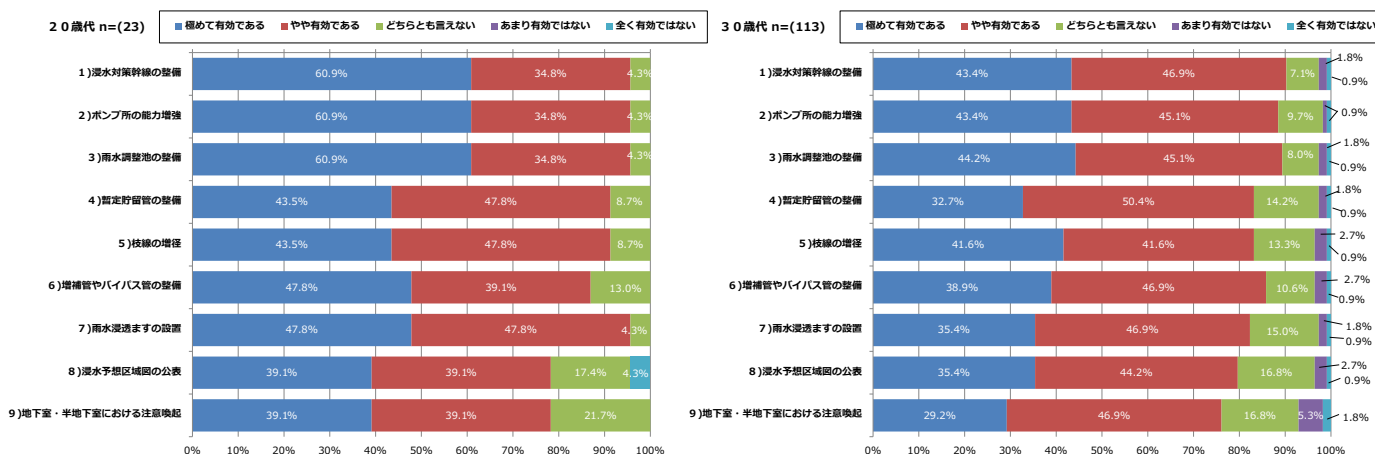


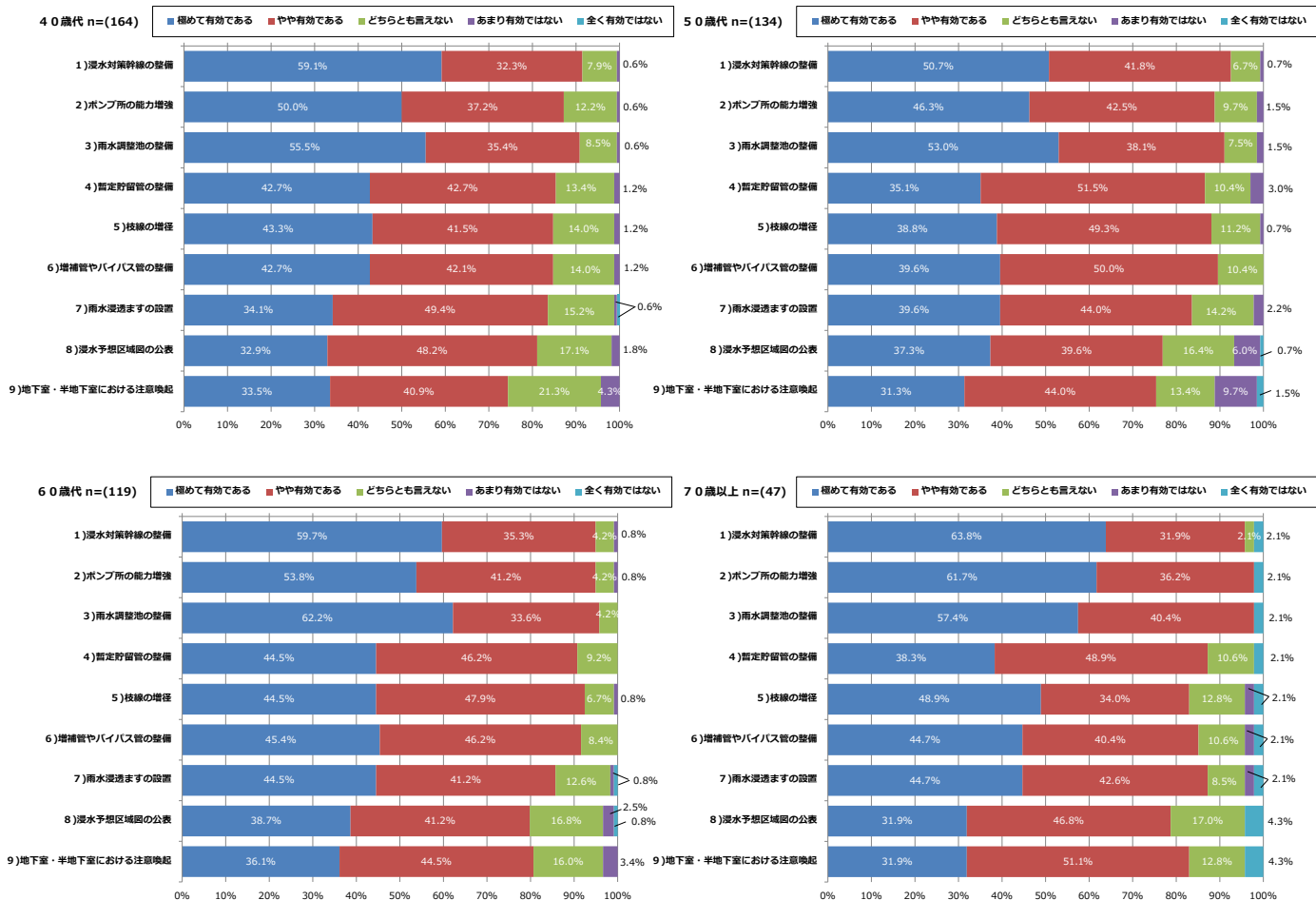
(3) 年代別

「極めて有効である」と回答したなかで、20 歳代は「1) 浸水対策幹線の整備」、「2) ポンプ所の能力増強」、「3) 雨水調整池の整備」が 60.9%、30 歳代は「1) 浸水対策幹線の整備」、「2) ポンプ所の能力増強」が 43.4%で最も多かった。

また、40 歳代は「1) 浸水対策幹線の整備」が 59.1%、50 歳代は「3) 雨水調整池の整備」が 53.0%、60 歳代は「3) 雨水調整池の整備」が 62.2%、70 歳以上は「1) 浸水対策幹線の整備」が 63.8%で最も多かった。

図 4.1.3(3) 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての評価（年齢別）

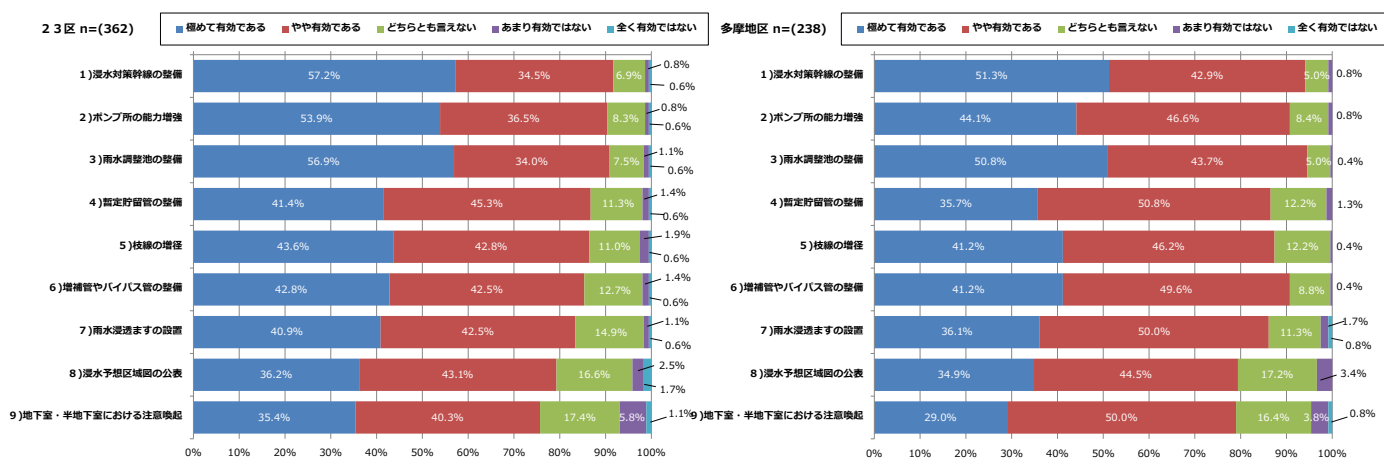




(4) 地域別

「極めて有効である」と回答したなかで、23区および多摩地区ともに「1) 浸水対策幹線の整備」が最も多く、23区は57.2%、多摩地区は51.3%であった。

図 4.1.3(4) 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての評価（地域別）

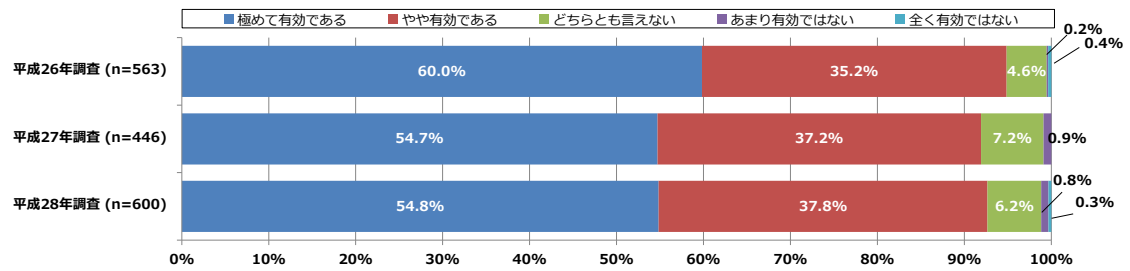


(5) 経年

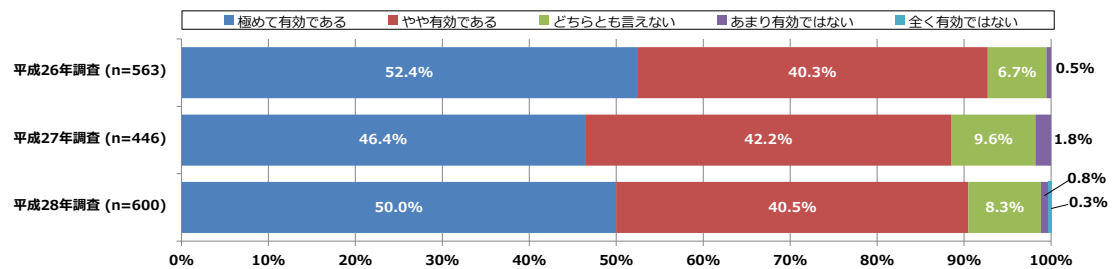
- 「1) 浸水対策幹線の整備」における評価の経年変化をみると、「有効である（極めて有効である、やや有効である）」との回答は平成 28 年度調査では 92.6%であり、平成 27 年度と比較すると 0.7 ポイント高くなった。
- 「2) ポンプ所の能力増強」における評価の経年変化をみると、「有効である（極めて有効である、やや有効である）」との回答は平成 28 年度調査では 90.5%であり、平成 27 年度と比較すると 1.9 ポイント高くなった。
- 「3) 雨水調整池の整備」における評価の経年変化をみると、「有効である（極めて有効である、やや有効である）」との回答は平成 28 年度調査では 92.3%であり、平成 27 年度と比較すると 2.4 ポイント高くなった。
- 「4) 暫定貯留管の整備」における評価の経年変化をみると、「有効である（極めて有効である、やや有効である）」との回答は平成 28 年度調査では 86.7%であり、平成 27 年度と比較すると 0.1 ポイント低くなった。
- 「5) 枝線の増径」における評価の経年変化をみると、「有効である（極めて有効である、やや有効である）」との回答は平成 28 年度調査では 86.9%であり、平成 27 年度と比較すると 2.4 ポイント高くなった。
- 「6) 増補管やバイパス管の整備」における評価の経年変化をみると、「有効である（極めて有効である、やや有効である）」との回答は平成 28 年度調査では 87.5%であり、平成 27 年度と比較すると 0.7 ポイント高くなった。
- 「7) 雨水浸透ますの設置」における評価の経年変化をみると、「有効である（極めて有効である、やや有効である）」との回答は平成 28 年度調査では 84.5%であり、平成 27 年度と比較すると 0.6 ポイント高くなった。
- 「8) 浸水予想区域図の公表」における評価の経年変化をみると、「有効である（極めて有効である、やや有効である）」との回答は平成 28 年度調査では 79.4%であり、平成 27 年度と比較すると 1.6 ポイント高くなった。
- 「9) 地下室・半地下室における注意喚起」における評価の経年変化をみると、「有効である（極めて有効である、やや有効である）」との回答は平成 28 年度調査では 77.0%であり、平成 27 年度と比較すると 3.9 ポイント高くなった。

図 4.1.3(5) 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての評価（経年）

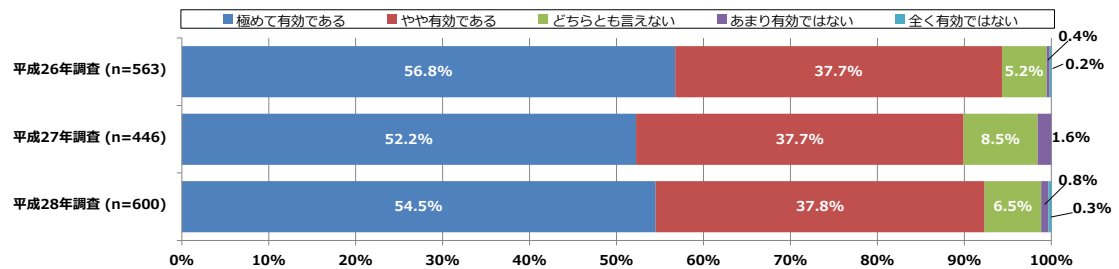
1) 浸水対策幹線の整備



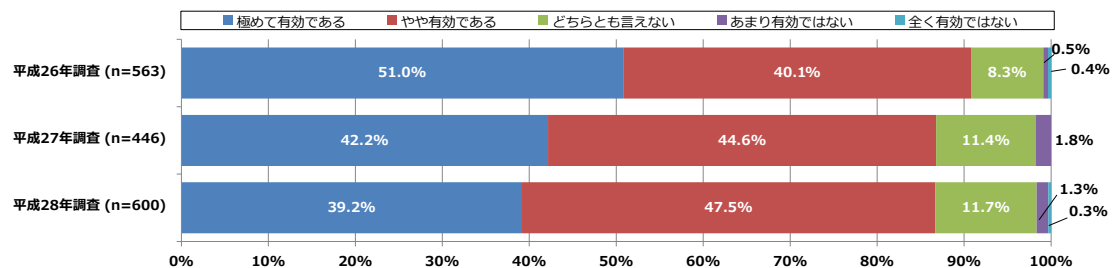
2) ポンプ所の能力増強



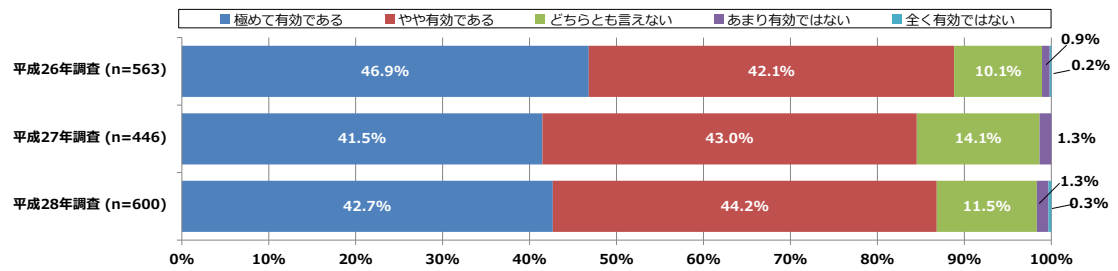
3) 雨水調整池の整備



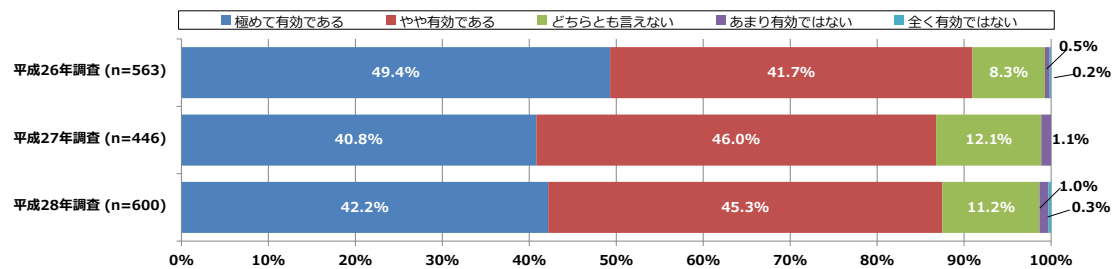
4) 暫定貯留管の整備



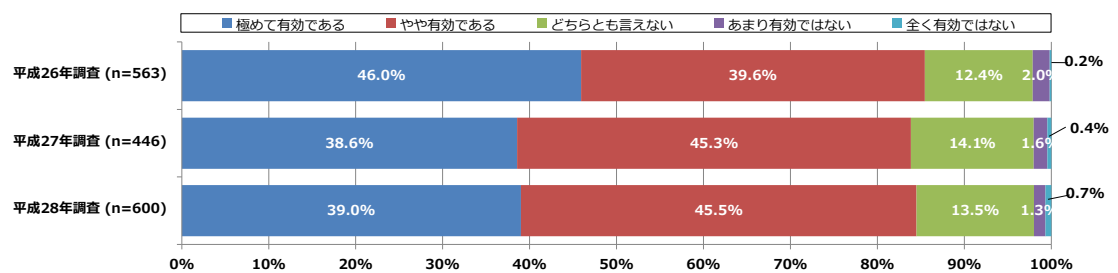
5) 枝線の増径



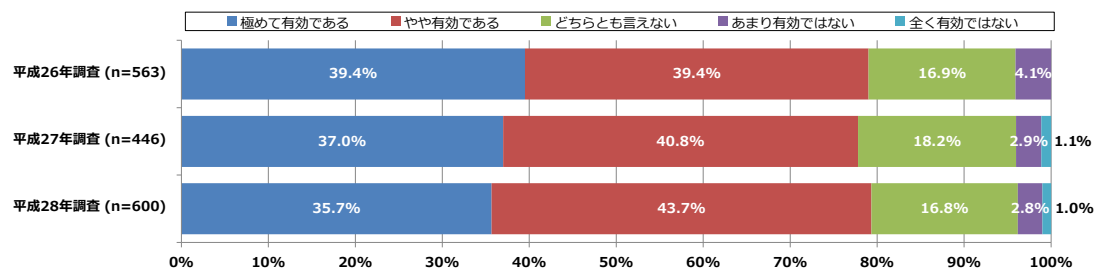
6) 増補管やバイパス管の整備



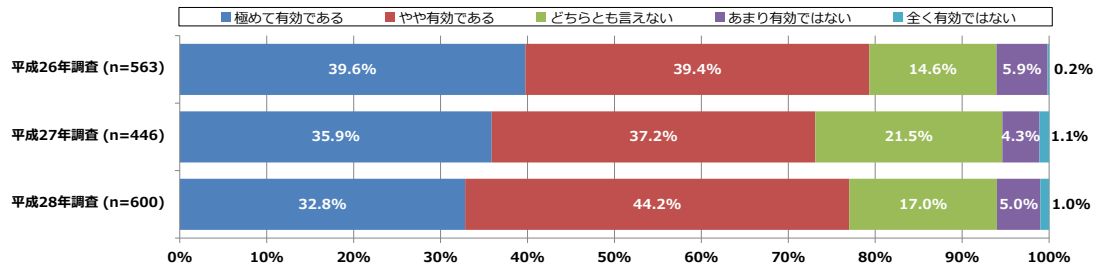
7) 雨水浸透ますの設置



8) 浸水予想区域図の公表



9) 地下室・半地下室における注意喚起



4.1.4. 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての意見

Q8. 東京都下水道局では、区部全域で1時間50mmの降雨に対して浸水被害の解消を図る取組を行っていますが、平成25年度においても、東京都区部において、下表のような浸水被害が発生しています。あなたは、浸水対策において、整備水準のレベルアップを含めた対応が必要だと思いますか？以下の中から該当する選択肢を一つだけお答え下さい。
(単一回答)

○平成25年の主な降雨と被害状況※

(平成25年11月末時点)

	4月6日 集中豪雨	7月23日 集中豪雨	8月12日 集中豪雨	8月21日 集中豪雨	9月15日 台風18号	10月16日 台風26号
床上	25	310	21	80	5	41
床下	2	132	16	99	8	59
計	27	442	37	179	13	100
時間最大雨量 (mm/hr) 雨量観測所名	41.5 落合(セ)	102 目黒区本町	92 練馬区練馬	58 文京(出)	45.5 浮間(セ)	56 東小松川(ポ)

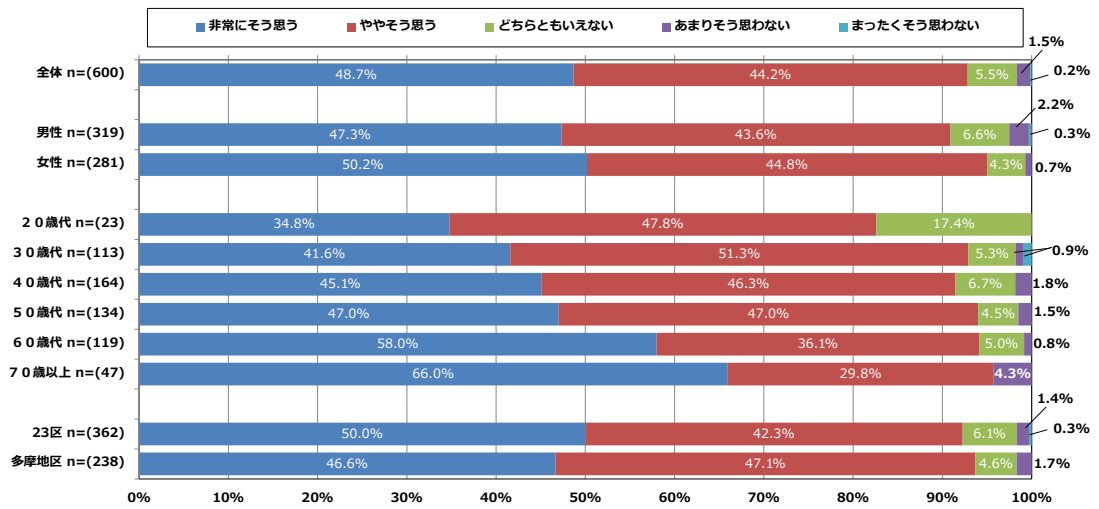
(セ):水再生センター (ポ):ポンプ所 (出):下水道局出張所

※被害状況:東京都総合防災部データをもとに下水道局で集計

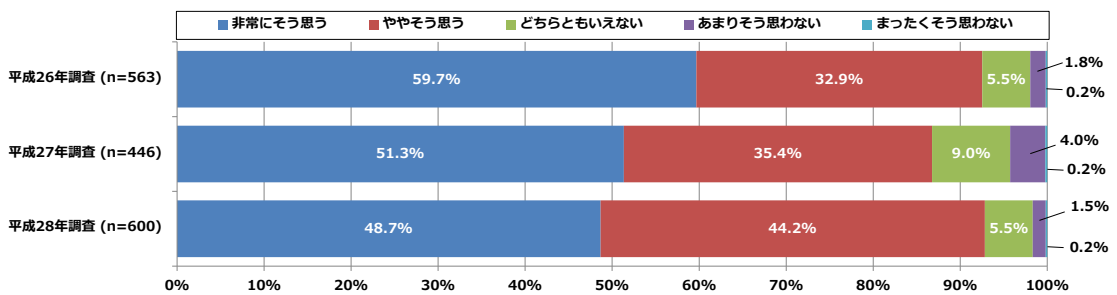
- 「非常にそう思う」との回答した者が最も多く全体の48.7%となった。
- 男女別にみると、「非常にそう思う」との回答は男性が47.3%、女性が50.2%となり、女性の方が男性より2.9ポイント高くなった。
- 年代別にみると、「非常にそう思う」との回答は20歳代から70歳代以上まで年代が上がるにつれて上昇し、60歳代が58.0%、70歳以上が66.0%で半数を超え、最も少ないのは20歳代で34.8%であった。
- 地域別にみると、「非常にそう思う」との回答が23区で50.0%、多摩地区で46.6%となり、23区が3.4ポイント高くなった。
- 経年変化をみると、「非常にそう思う」との回答は、平成26年度調査が59.7%と最も多く、平成28年度調査と比較する11ポイント低くなった。

図 4.1.4 下水道の浸水対策のイメージと具体策についての意見

【平成28年度】



【経年】



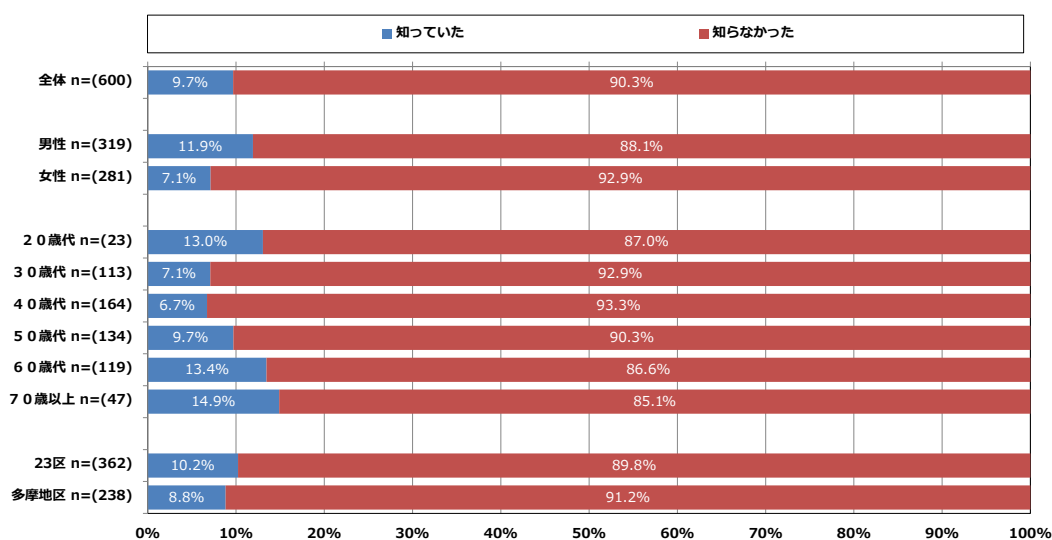
4.1.5. 豪雨対策下水道緊急プランへの認知度

Q9. 東京都下水道局では、平成 25 年の局地的集中豪雨や台風により、甚大な浸水被害が生じたことから、雨水整備水準のレベルアップを含む検討を進めてきました。平成 25 年 12 月、豪雨による浸水被害の軽減を目指して「豪雨対策下水道緊急プラン」を策定しました。あなたは、このプランを知っていましたか？以下の中から該当する選択肢を一つだけお答え下さい。(単一回答)

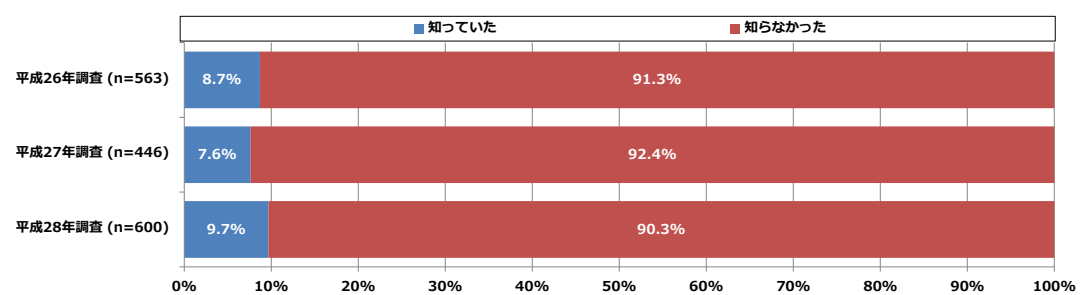
- 「知っていた」との回答が 9.7% で半数以下であった。
- 男女別にみると、「知っていた」との回答は男性が 11.9%、女性が 7.1% となり、男性の方が女性より 4.8 ポイント高くなった。
- 年代別にみると、「知っていた」との回答は 30 歳代が 7.1%、40 歳代が 6.7%、50 歳代が 9.7% で 1 割を満たなかったが、20 歳代は 13.0%、60 歳代は 13.4%、70 歳以上は 14.9% で 1 割を超えた。
- 地域別にみると、「知っていた」との回答が 23 区で 10.2%、多摩地区で 8.8% となり、23 区が 1.4 ポイント高くなった。
- 経年変化をみると、「知っていた」との回答は、平成 28 年度調査が 9.7% と最も多く、平成 27 年度調査と比較する 2.1 ポイント高くなった。

図 4.1.5 豪雨対策下水道緊急プランへの認知度

【平成 28 年度】



【経年】



4.1.6. 豪雨対策下水道緊急プランの理解度

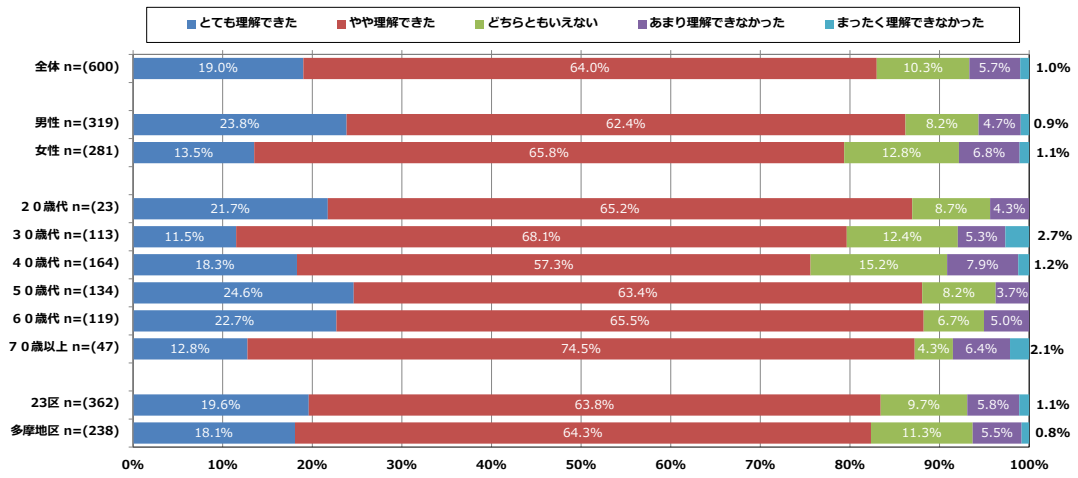
Q10-1. 「豪雨対策下水道緊急プラン」について、概要版を示します。あなたは、このプランを理解できましたか？以下の中から該当する選択肢を一つだけお答え下さい。(単一回答)



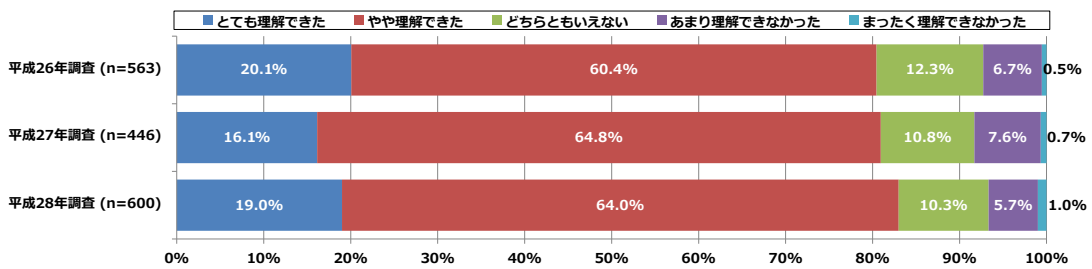
- 「とても理解できた」との回答が 19.0%で半数以下であった。
- 男女別にみると、「とても理解できた」との回答は男性が 23.8%、女性が 13.5%となり、男性の方が女性より 10.3 ポイント高くなった。
- 年代別にみると、「とても理解できた」との回答は 50 歳代が 24.6%、60 歳代が 22.7%で 2 割以上を超え、最も少ないのは 30 歳代で 11.5%であった。
- 地域別にみると、「とても理解できた」との回答が 23 区で 19.6%、多摩地区で 18.1%となり、23 区が 1.5 ポイント高くなった。
- 経年変化をみると、「とても理解できた」との回答は、平成 26 年度調査が 20.1%と最も多く、平成 28 年度調査と比較すると 1.1 ポイント低くなった。

図 4.1.6 豪雨対策下水道緊急プランへの理解度

【平成28年度】



【経年】



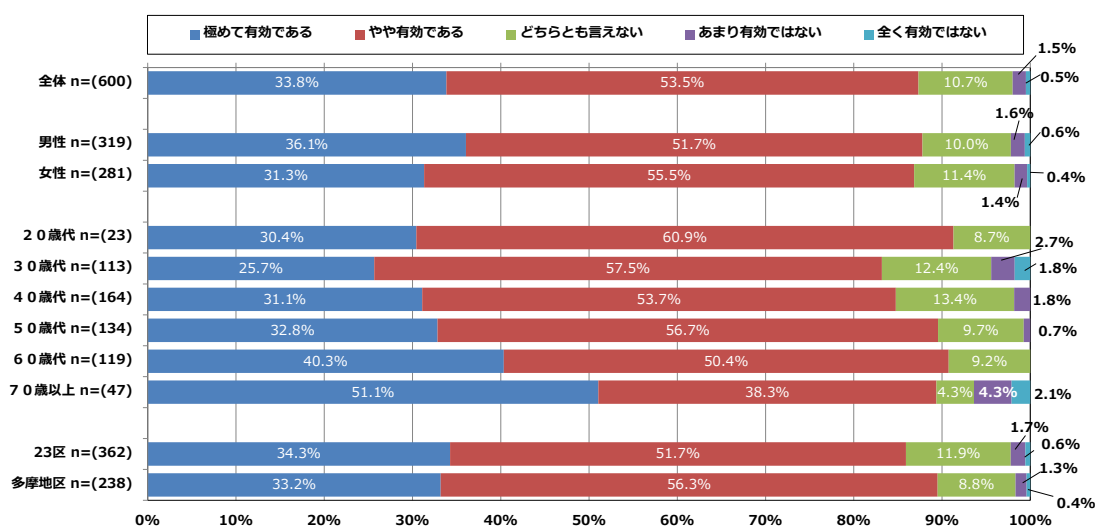
4.1.7. 豪雨対策下水道緊急プランの期待度

Q10-2. 「豪雨対策下水道緊急プラン」の概要版をご覧ください、以下の中から該当する選択肢を一つだけお選びいただき、あなたの評価をお答えください。(単一回答)

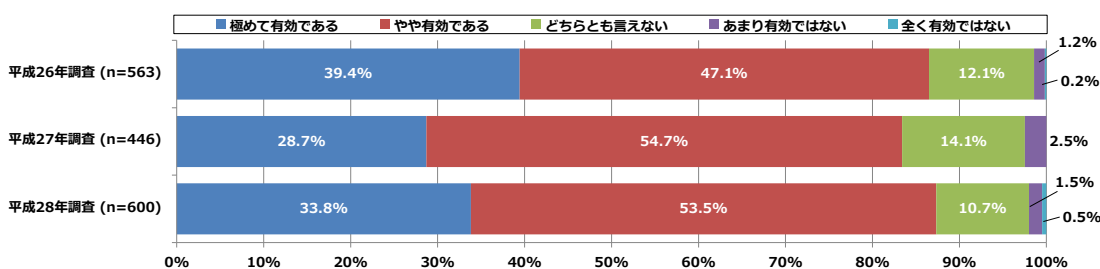
- 「極めて有効である」との回答が 33.8%で半数以下であった。
- 男女別にみると、「極めて有効である」との回答は男性が 36.1%、女性が 31.3%となり、男性の方が女性より 4.8 ポイント高くなった。
- 年代別にみると、「極めて有効である」との回答は 70 歳以上が 51.1%で半数を超え、最も少ないのは 30 歳代で 25.7%であった。
- 地域別にみると、「極めて有効である」との回答が 23 区で 34.3%、多摩地区で 33.2%となり、23 区が 1.1 ポイント高くなった。
- 経年変化をみると、「内容や意味を知っている」との回答は、平成 26 年度調査が 39.4%と最も多く、平成 28 年度調査と比較すると 5.6 ポイント低くなった。

図 4.1.7 豪雨対策下水道緊急プランへの期待度

【平成 28 年度】



【経年】



4.2. 家庭での浸水への対策

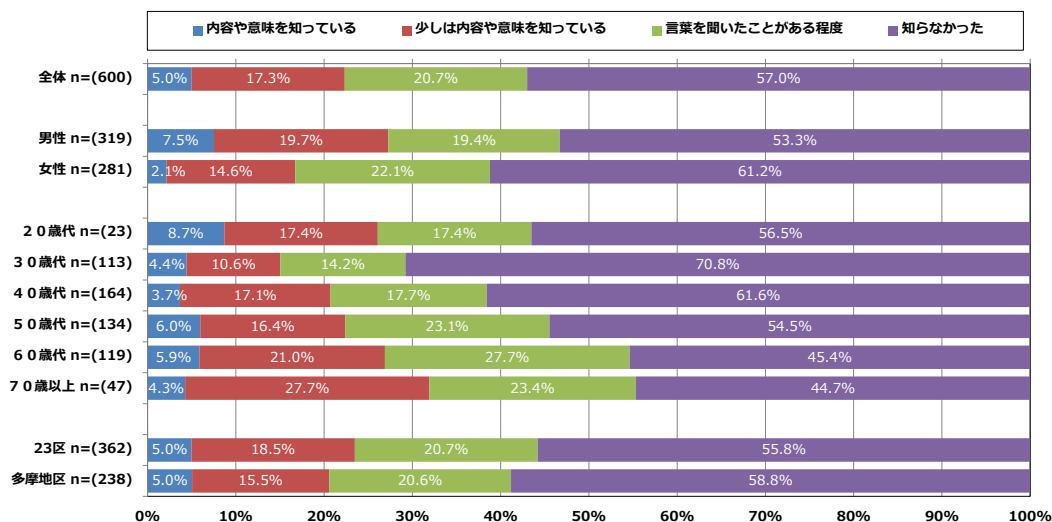
4.2.1. 浸水対策強化月間」の認知度

Q11. あなたは、「浸水対策強化月間」についてどのくらいご存知ですか。以下の選択肢の中から該当するものを一つだけお選びください。(単一回答)

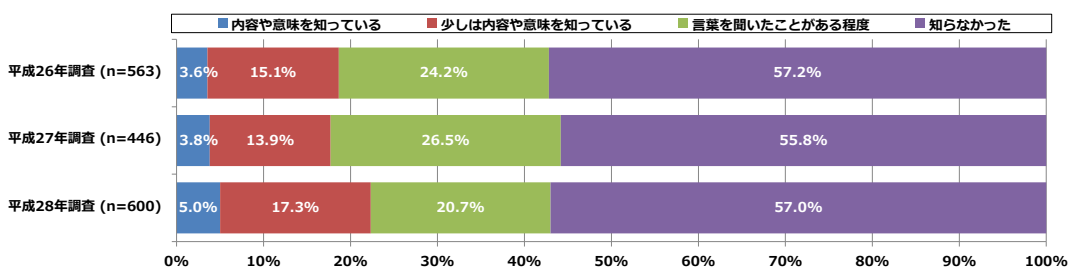
- 「内容や意味を知っている」と回答した者は全体の 5.0%で最も少なかった。
- 男女別にみると、「内容や意味を知っている」との回答は男性が 7.5%、女性が 2.1%となり、男性の方が女性より 5.4 ポイント高くなった。
- 年代別にみると、「内容や意味を知っている」との回答は 20 歳代が 8.7%で最も多く、最も少ないのは 40 歳代で 3.7%であった。
- 地域別にみると、「内容や意味を知っている」との回答が 23 区、多摩地区ともに 5.0%で最も少なかった。
- 経年変化をみると、「内容や意味を知っている」との回答は、平成 28 年度調査が 5%と最も多く、平成 27 年度調査と比較すると 1.2 ポイント高くなった。

図 4.2.1 「浸水対策強化月間」の認知度

【平成 28 年度】



【経年】



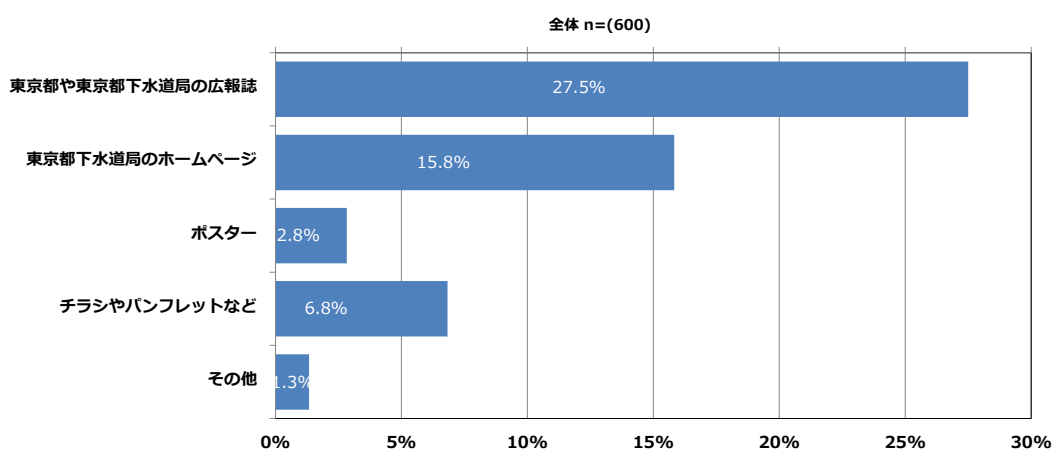
4.2.2. 浸水対策強化月間の認知経路

Q12. 上記Q 1 1で、「1～3」を選択した人におたずねします。「浸水対策強化月間」をどこで知りましたか。以下の選択肢の中から、該当するものをいくつでもお答え下さい(複数回答)。

(1) 全体

「東京都や東京都下水道局の広報誌」との回答が27.5%で最も多く、次に「東京都下水道局のホームページ」で15.8%であった。「その他」を除くと最も低かったのは「ポスター」で2.8%であった。

図 4. 2. 2(1) 浸水対策強化月間の認知経路（全体）

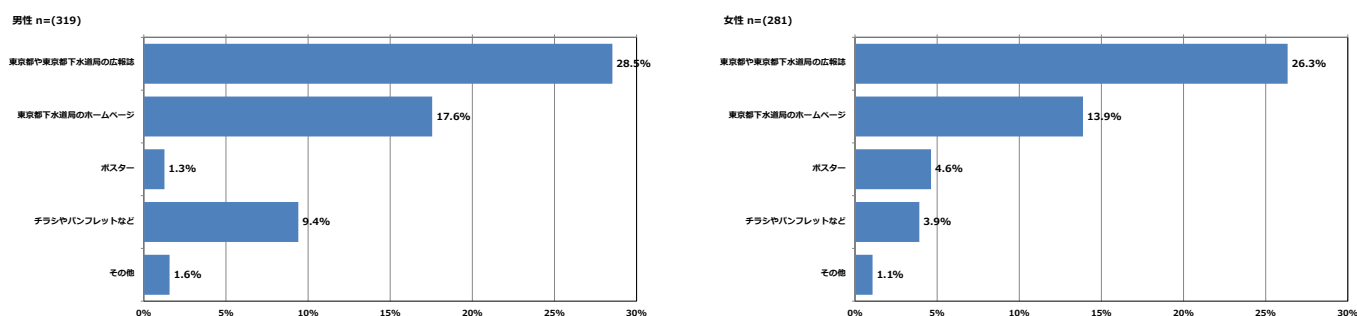


(2) 性別

男女ともに「東京都や東京都下水道局の広報誌」との回答が最も多く、男性が28.5%、女性で26.3%となり、男性の方が女性より2.2ポイント高くなった。

また、「その他」を除くと最も低かったのは、男性が「ポスター」で1.3%、女性が「チラシやパンフレットなど」で3.9%であった。

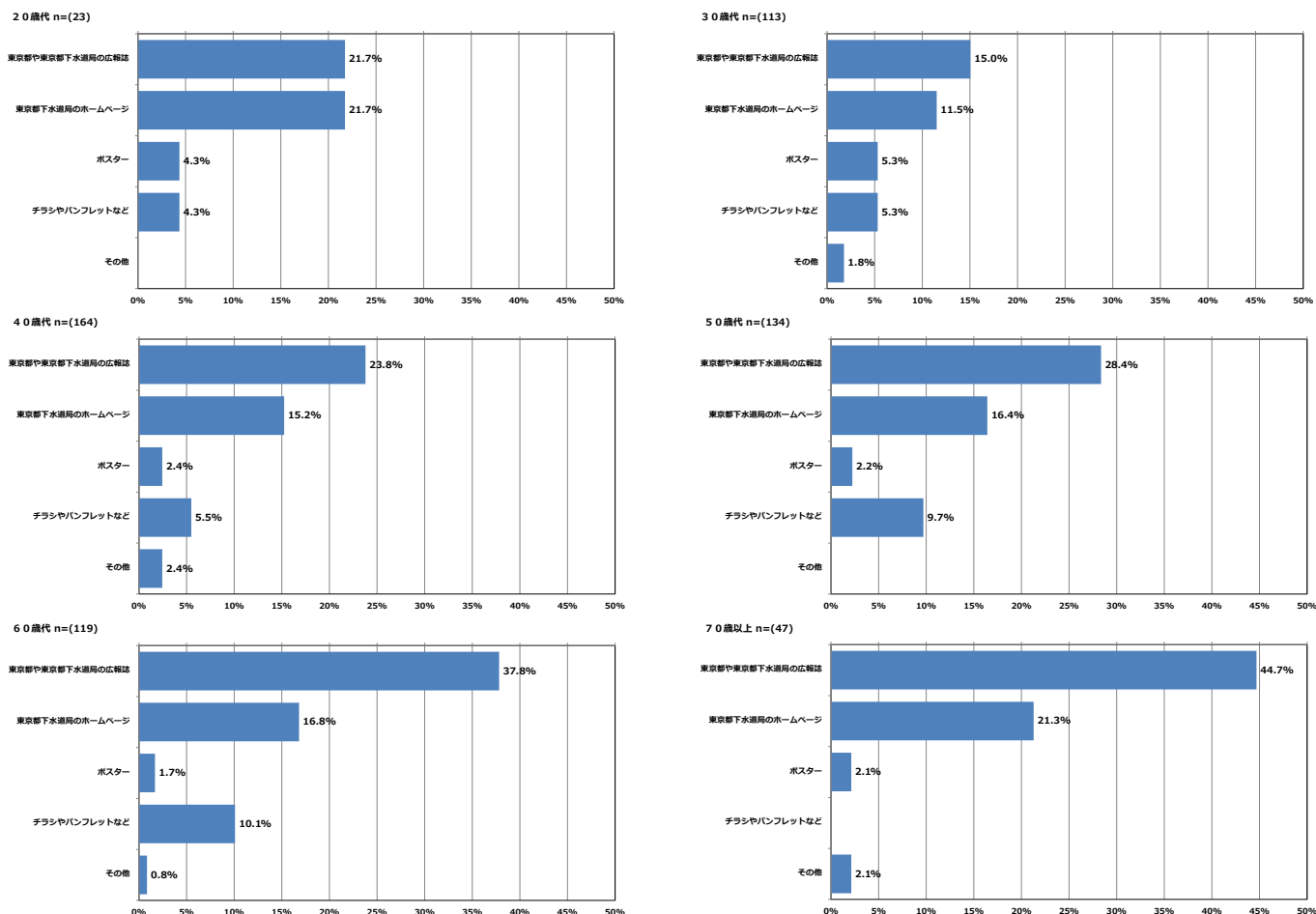
図 4. 2. 2(2) 浸水対策強化月間の認知経路（性別）



(3) 年代別

全ての年代において「東京都や東京都下水道局の広報誌」との回答が最も多く、70歳以上44.7%、60歳代37.8%、50歳代28.4%、40歳代23.8%、20歳代21.7%、30歳代15.0%の順になった。

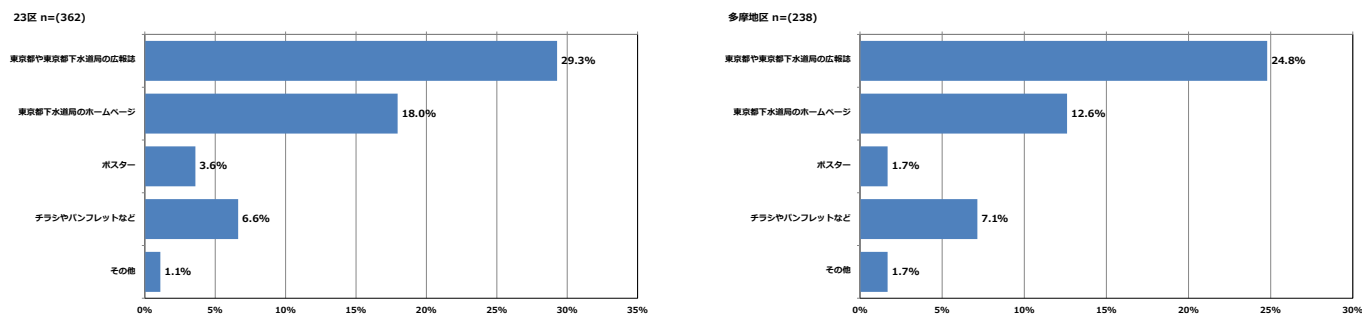
図 4. 2. 2 (3) 浸水対策強化月間の認知経路（年齢別）



(4) 地域別

「その他」を除くと23区および多摩地区ともに「東京都や東京都下水道局の広報誌」の回答が最も多く、23区では29.3%、多摩地区では24.8%であった。

図 4. 2. 2 (4) 浸水対策強化月間の認知経路（地域別）

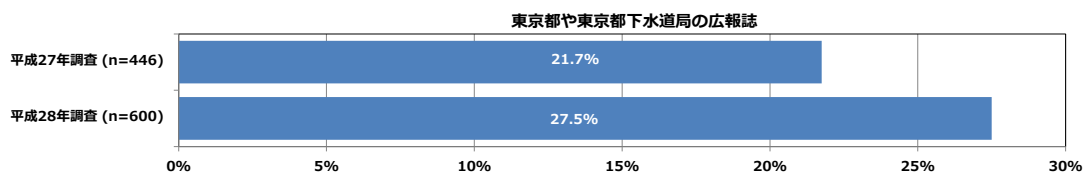


(5) 経年

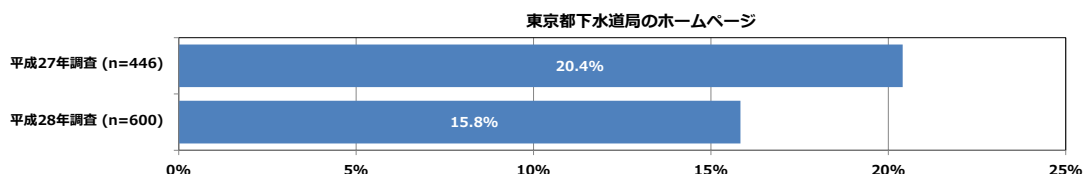
- 「1)東京都や東京都下水道局の広報誌」における認知経路の経年変化をみると、平成28年度調査では27.5%であり、平成27年度と比較すると5.8ポイント高くなった。
- 「2)東京都下水道局のホームページ」における認知経路の経年変化をみると、平成28年度調査では15.8%であり、平成27年度と比較すると4.6ポイント低くなった。
- 「3)ポスター」における認知経路の経年変化をみると、平成28年度調査では2.8%であり、平成27年度と比較すると3.7ポイント低くなった。
- 「4)チラシやパンフレットなど」における認知経路の経年変化をみると、平成28年度調査では6.8%であり、平成27年度と比較すると1.2ポイント高くなった。
- 「5)その他」における認知経路の経年変化をみると、平成28年度調査では1.3%であり、平成27年度と比較すると0.7ポイント低くなった。

図 4.2.2(5) 浸水対策強化月間の認知経路（経年）

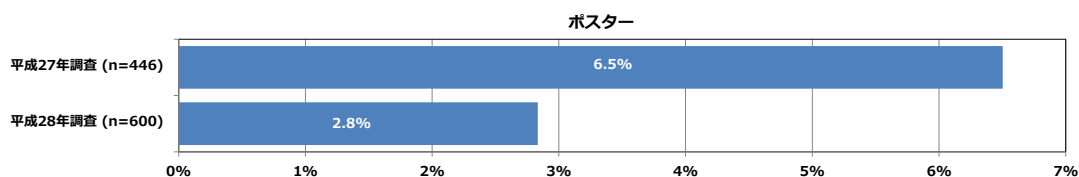
1) 東京都や東京都下水道局の広報誌



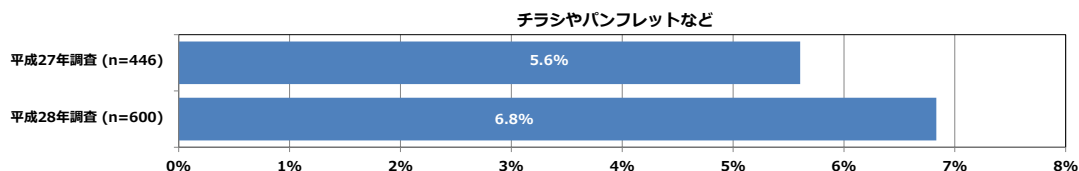
2) 東京都下水道局のホームページ



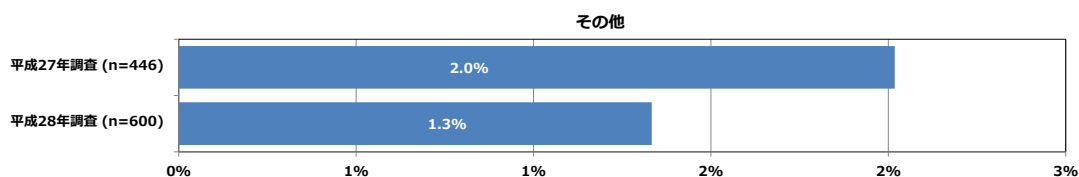
3) ポスター



4) チラシやパンフレットなど



5) その他



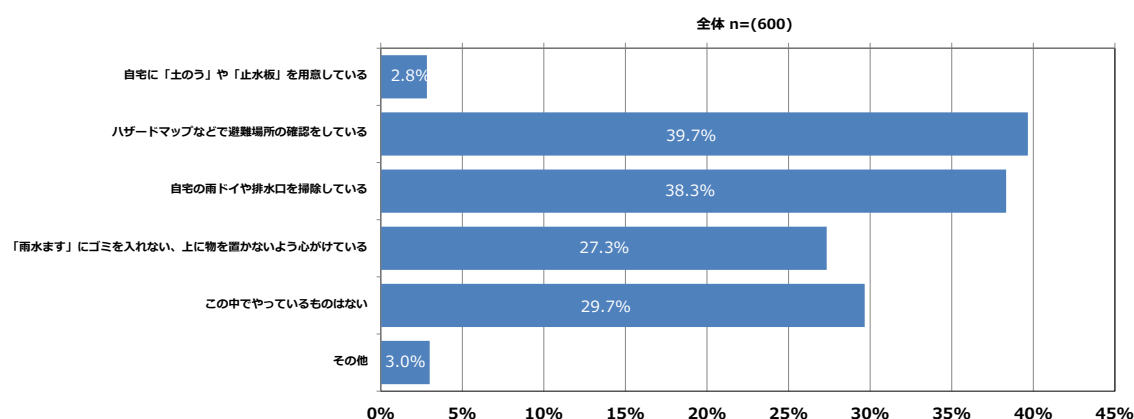
4.2.3. ご家庭での浸水対策について

Q13. 次に「浸水への備え」についておうかがいします。次の中で、あなたが日頃から行っている「浸水への備え」はありますか。以下の選択肢のうち、「1～5」については該当するものをいくつでもお答え下さい（複数回答）。「1～5」で該当するものがない場合は、「6」をお選びください。

(1) 全体

「ハザードマップなどで避難場所の確認をしている」との回答が 39.7%で最も多く、次に「自宅の雨ドイや排水口を掃除している」で 38.3%であった。最も低かったのは「自宅に「土のう」や「止水板」を用意している」で 2.8%であった。

図 4.2.3(1) ご家族の浸水対策について（全体）

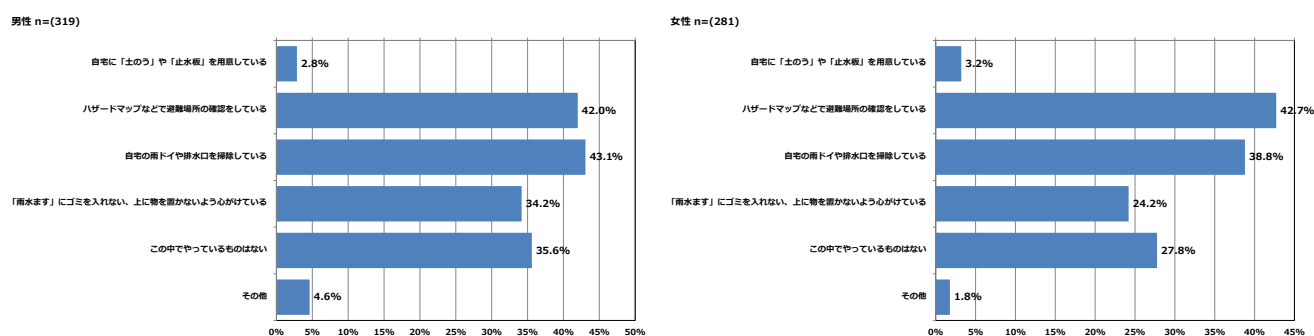


(2) 性別

男性は「自宅の雨ドイや排水口を掃除している」が 43.1%、女性は「ハザードマップなどで避難場所の確認をしている」が 42.7%で、最も回答が多かった。

また、最も低かったのは、男女ともに「自宅に「土のう」や「止水板」を用意している」で男性が 2.8%、女性が 3.2%であった。

図 4.2.3(2) ご家族の浸水対策について（性別）

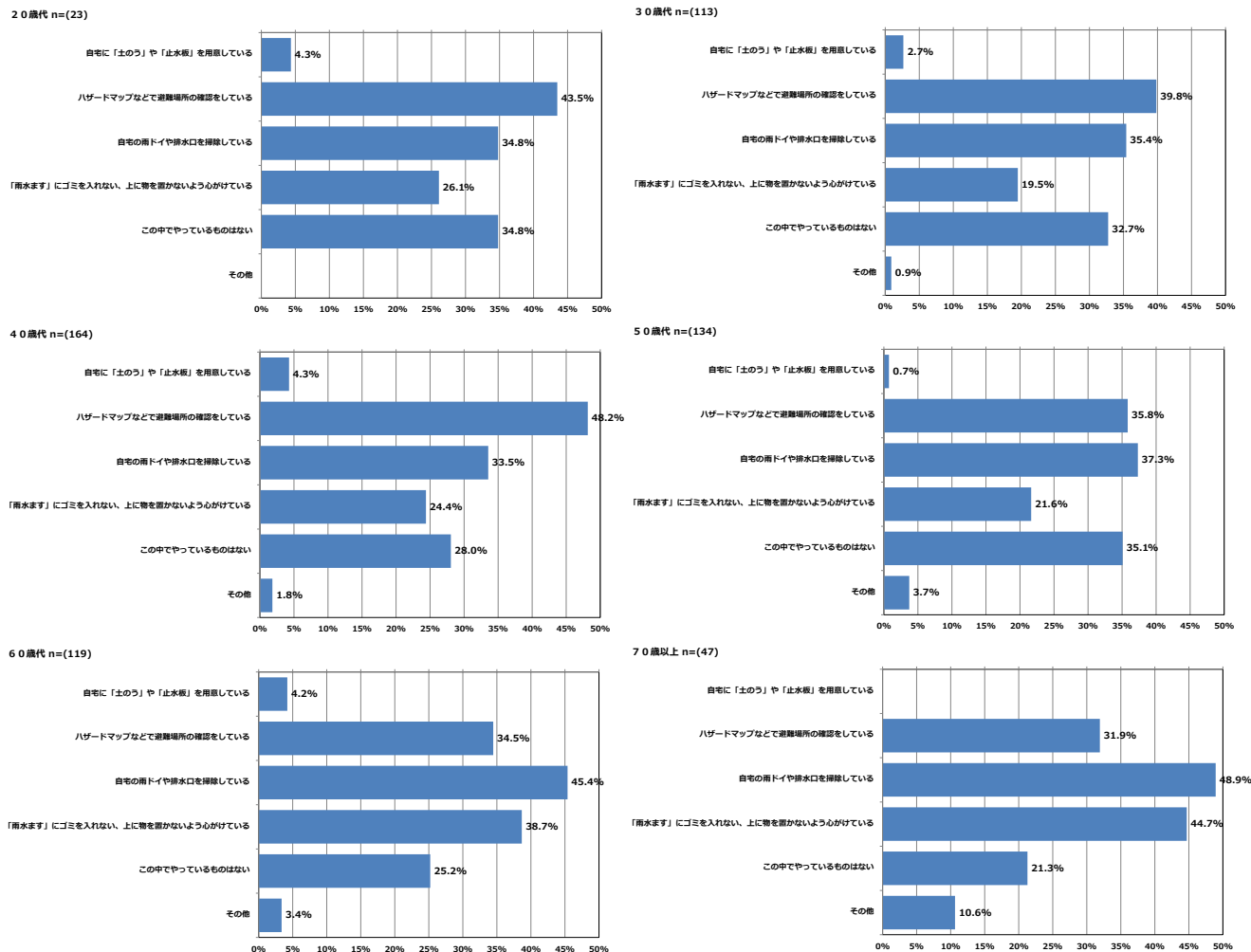


(3) 年齢別

20 歳代、30 歳代、40 歳代は「ハザードマップなどで避難場所の確認をしている」との回答が最も多く、20 歳代 43.5%、30 歳代 39.8%、40 歳代 48.2%であった。

また、50 歳代、60 歳代、70 歳以上は「自宅の雨ドイや排水口を掃除している」との回答が最も多く、50 歳代 37.3%、60 歳代 45.4%、70 歳以上 48.9%であった

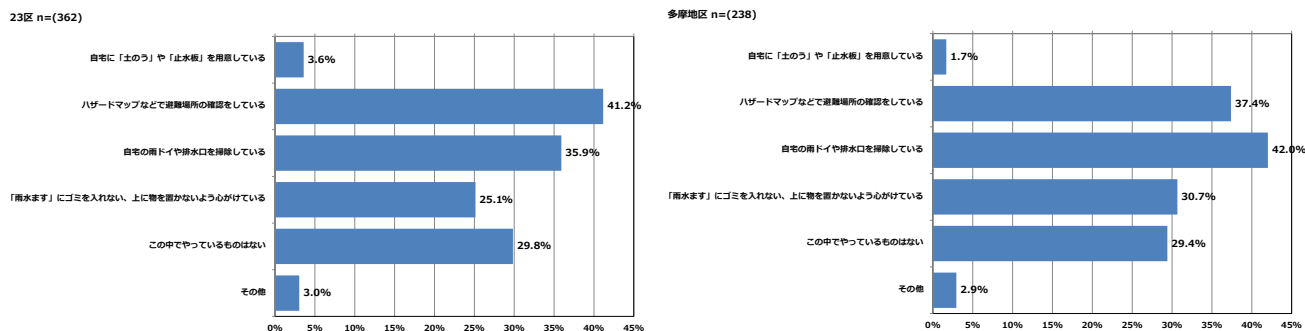
図 4.2.3(3) ご家族の浸水対策について（年代別）



(4) 地域別

「その他」を除くと23区で「ハザードマップなどで避難場所の確認をしている」が41.2%、多摩地区では「自宅の雨ドイや排水口を掃除している」が42.0%で最も回答が多くなった。

図 4. 2. 3 (4) ご家族の浸水対策について (地域別)

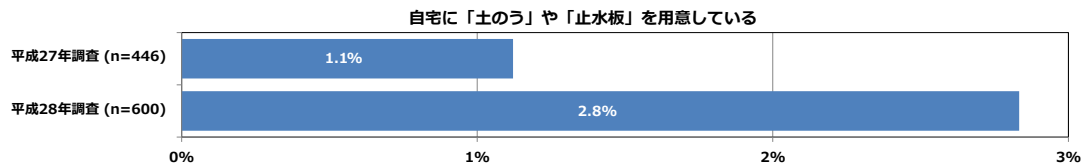


(5) 経年

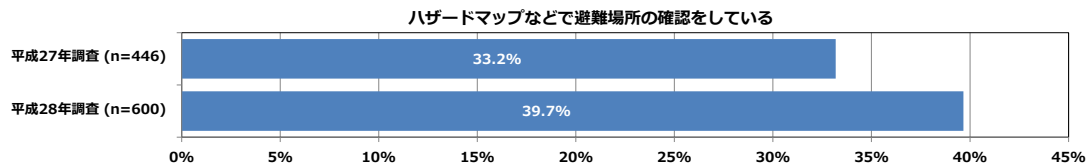
- 「1)自宅に「土のう」や「止水板」を用意している」における浸水対策の経年変化をみると、平成28年度調査では2.8%であり、平成27年度と比較すると1.7ポイント高くなった。
- 「2)ハザードマップなどで避難場所の確認をしている」における浸水対策の経年変化をみると、平成28年度調査では39.7%であり、平成27年度と比較すると6.5ポイント高くなった。
- 「3)自宅の雨ドイや排水口を掃除している」における浸水対策の経年変化をみると、平成28年度調査では38.3%であり、平成27年度と比較すると0.5ポイント低くなった。
- 「4)「雨水ます」にゴミを入れない、上に物を置かないよう心がけている」における浸水対策の経年変化をみると、平成28年度調査では27.3%であり、平成27年度と比較すると0.2ポイント低くなった。
- 「5)この中でやっているものはない」における浸水対策の経年変化をみると、平成28年度調査では29.7%であり、平成27年度と比較すると27.2ポイント高くなった。
- 「6)その他」における浸水対策の経年変化をみると、平成28年度調査では3.0%であり、平成27年度と比較すると32.7ポイント低くなった。

図 4. 2. 3 (5) ご家族の浸水対策について（経年）

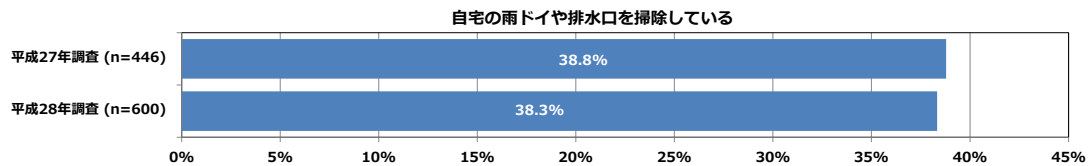
1) 自宅に「土のう」や「止水板」を用意している



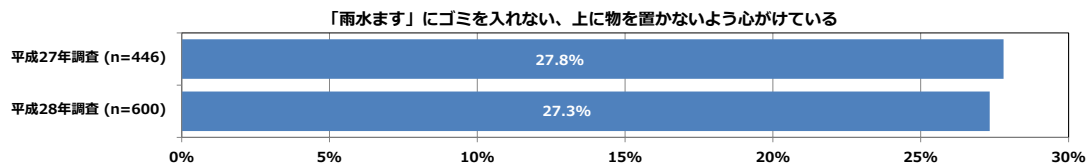
2) ハザードマップなどで避難場所の確認をしている



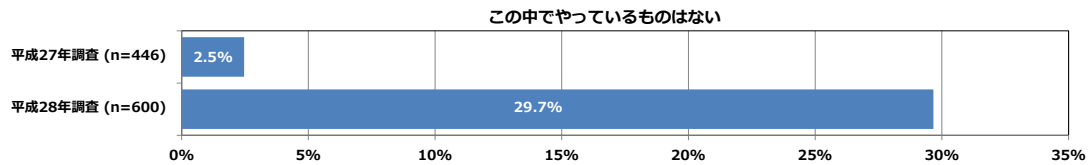
3) 自宅の雨ドイや排水口を掃除している



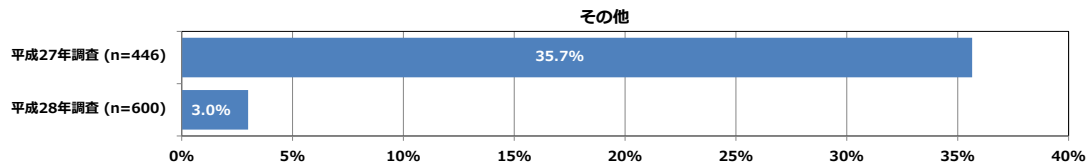
4) 「雨水ます」にゴミを入れない、上に物を置かないよう心がけている



5) この中でやっているものはない



6) その他



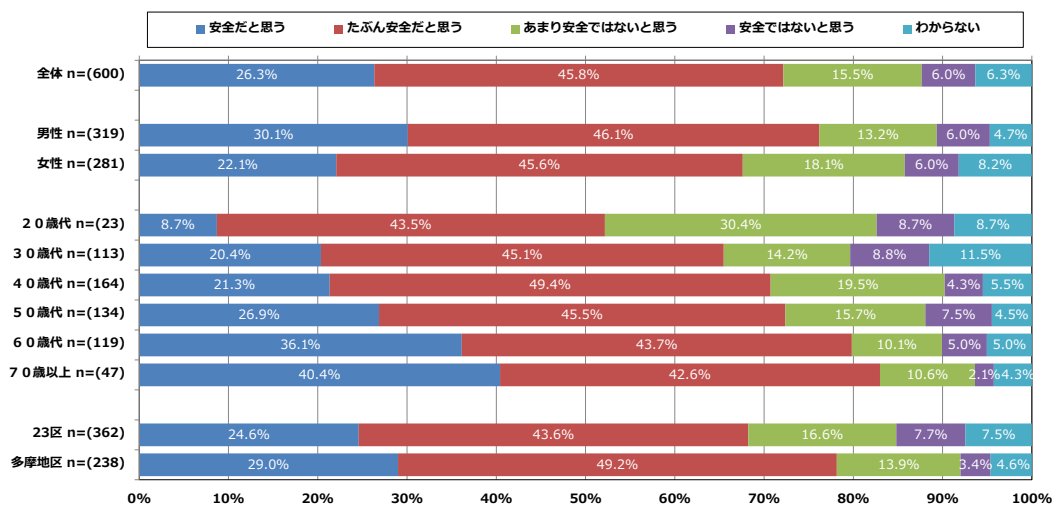
4.2.4. ご家庭での浸水対策の安全性

Q14. あなたのお宅は、大雨による浸水に対して安全だと思いますか。以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選びください。(単一回答)

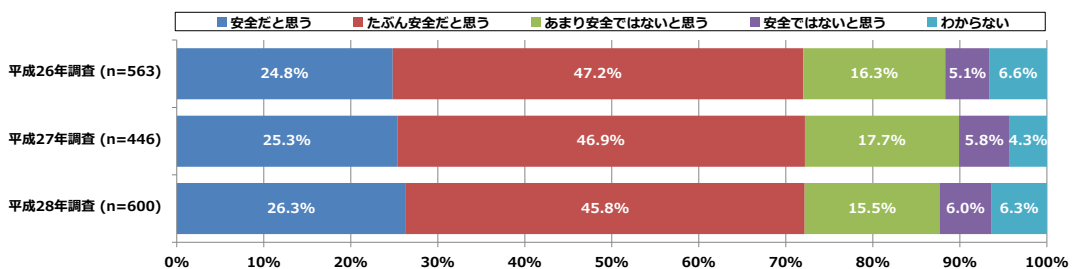
- 全体の、72.1%が「安全だと思う（安全だと思う、たぶん安全だと思う）」と考えている。
- 男女別にみると、「安全だと思う」との回答は男性が 30.1%、女性が 22.1%となり、男性の方が女性より 8.0 ポイント高くなった。
- 年代別にみると、「安全だと思う」との回答は、20 歳代から 70 歳代以上まで年代が上がるにつれて上昇し、20 歳代が 8.7%、70 歳以上が 40.4%であった。
- 地域別にみると、「安全だと思う」との回答が 23 区で 24.6%、多摩地区で 29.0%となり、多摩地区が 4.4 ポイント高くなった。
- 経年変化をみると、「安全だと思う」との回答は、平成 28 年度調査が 26.3%と最も多く、平成 27 年度調査と比較すると 1.0 ポイント高くなった。

図 4.2.4 ご家庭での浸水対策の安全性

【平成 28 年度】



【経年】



4.2.5. ご家庭での浸水対策の安全性に対する理由

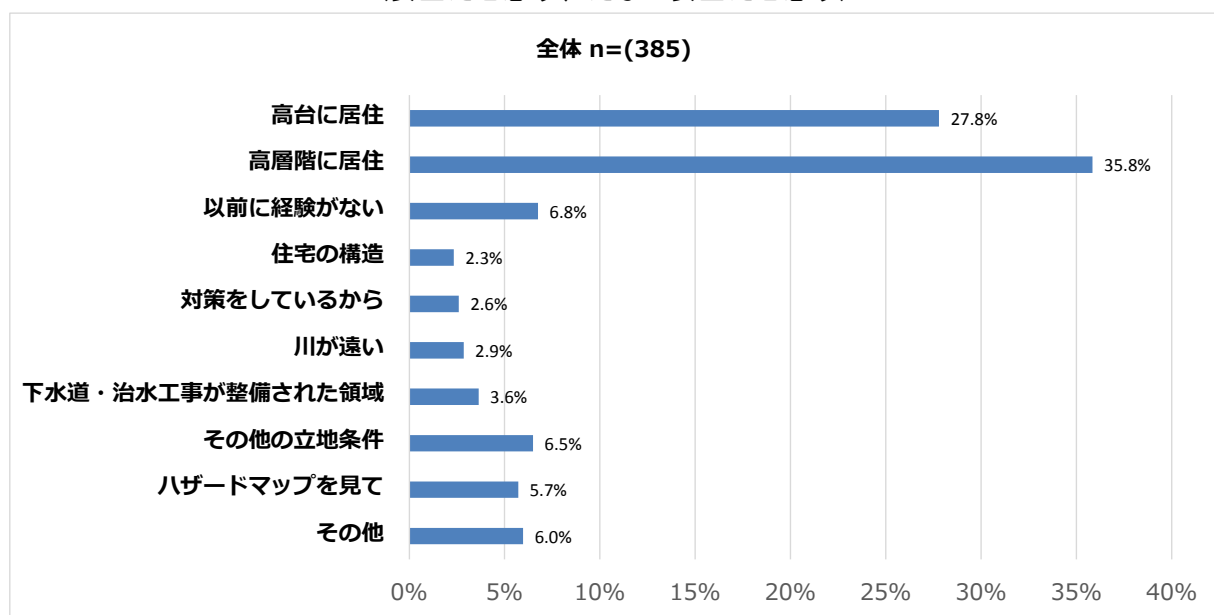
Q15. 上記Q14で、大雨による浸水に対する安全について、あなたがそのようにお答えになった理由を教えてください。(自由回答)

(1) 安全だと思う、たぶん安全だと思う理由

「高層階に移住」の回答が最も多く、35.8%であった。次に、「高台に移住」が27.8%で、併せて6割を超えた。

また、最も少なかった回答は「住他の構造」で2.3%であった。

図 4.2.5(1) ご家庭での浸水対策の安全性に対する理由
(安全だと思う、たぶん安全だと思う)



1. 「高台に移住」

- ◆ 杉並区在住であるが、過去に浸水被害があった地域は、地盤面が低いところであった。
我が家は高台ではないが、比較的高い場所に位置しているため。(23区男性、40歳代)
- ◆ 高台立地であり、浸水の可能性は極めて少ない。(多摩地区女性、60歳代)
- ◆ 浸水予想区域図と高台に住んでいることから、浸水に対しては安全と考えます。(多摩地区男性、50歳代)
- ◆ 自宅より周りの水位が低い。(23区女性、50歳代)
- ◆ 低地を避け、高台に住宅を建設したため。(23区男性、30歳代)

2. 「高層階に居住」

- ◆ 現在住んでいる住宅が 11 階なので部屋の中にいれば浸水の心配が無い。(23 区男性、50 歳代)
- ◆ タワーマンションの上層階に住まいがあるから。(23 区女性、60 歳代)
- ◆ 坂の上に位置する集合住宅の 2 階だから。但し、近隣の坂下は冠水のおそれがあると認識している。(23 区女性、50 歳代)
- ◆ 役所の近いマンションの 3 階に住んでいます。周辺道路はやや広い住宅街。マンションの入口所は地面を斜めにしているため、雨水が自然に外に流れます。(23 区女性、30 歳代)
- ◆ マンションの 7 階に住んでいて浸水の被害はありえないので。(多摩地区女性、40 歳代)

3. 「以前に経験がない」

- ◆ これまで 60 年以上 1 度も浸水したことが無いから。(23 区男性、60 歳代)
- ◆ 過去にその様な事例なし。(多摩地区男性、70 歳以上)
- ◆ 居住してから 3 年になるが、1 時間に 50mm 相当の豪雨が 2～3 度あったが浸水などの被害が無かったこと。(多摩地区男性、70 歳以上)
- ◆ 過去に浸水被害が無かったから。(23 区男性、60 歳代)
- ◆ 大雨による危険性等経験したことがないのであまりピンとこない。何をオーバーに騒いで公共工事を増やしているのだろうと思う。(23 区男性、70 歳以上)

4. 「住宅の構造」

- ◆ 盛り土の上にある。(23 区男性、50 歳代)
- ◆ 自宅新築時に、ハウスメーカーに地盤調査を実施したり、浸水対策を講じた上で設計・建築している。(多摩地区女性、50 歳代)
- ◆ 建築時に雨水浸透マスを設置し、これまでも適宜 排水が行われているため。(多摩地区女性、50 歳代)
- ◆ 家を建てる時に盛り土をして周りよりも高くしてあるから。(多摩地区男性、20 歳代)
- ◆ 新築した時に建物を 1.5 メートルほど高くしました。(23 区男性、60 歳代)

5. 「対策をしているから」

- ◆ 住んでいるところでは対策の必要がないから。(多摩地区男性、50歳代)
- ◆ 現在の住居に居住して10年が経過しました。その間の豪雨時の路面の水の流れを見ると、良い流れで排水溝まで導かれています。この環境を維持する為に、排水溝の定期的な掃除をしています。(多摩地区男性、60歳代)
- ◆ それなりに備えている。(多摩地区男性、50歳代)
- ◆ 下水道局では全体では色々やつてるようですが先日も家の前の雨水ますの網を細かいものから粗いものに変えたりして、ますの掃除等も個人的にも自分のところよりは良く掃除してる次第です。(23区男性、60歳代)
- ◆ 天気予報などを聞いて、大雨・台風の際は、自宅の排水溝などの清掃・確認をしている。(23区男性、50歳代)

6. 「川が遠い」

- ◆ 地域の地盤が固い方で、河川も近くにない。(多摩地区女性、50歳代)
- ◆ 近くに河川がないことや、排水の妨げにならないように清掃等を定期的の実施しており、今のところ大丈夫だと思う一方、近年のゲリラ豪雨など、これからも大丈夫かどうか不安がないわけではありません。下水道の存在があつての安心安全であり、大変感謝しています。(23区男性、40歳代)
- ◆ 河川から離れているため安全と思われる。(23区女性、20歳代)
- ◆ 河川から離れているので、大雨でも浸水はないと思います。(多摩地区女性、40歳代)
- ◆ 近くに川がない。平地に家がある。(23区女性、60歳代)

7. 「下水道・治水工事が整備された領域」

- ◆ 以前は浸水被害もあったが、下水の整備ができこのところ被害がないため。(23区女性、60歳代)
- ◆ 大雨の時も、しっかり水が下水の方へ流れていってくれるから。(23区女性、40歳代)
- ◆ 現在まで住んでいて排水に対して困ったこともなく、浸水に対して不安も感じていない。(23区男性、50歳代)
- ◆ 道路整備されたから。(23区男性、40歳代)
- ◆ 数年前に下水道の更新があり、また最近にも管の交換があるようなのでひとまず安全だと思います。(23区男性、60歳代)

8. 「その他の立地条件」

- ◆ 地形上たぶん安全だと思う。(23区男性、60歳代)
- ◆ 近頃の気象状況は想像を超えている。昔と比べ大雨でも水のたまることが、なくなりましたが完全はないと思っています。(23区女性、70歳以上)
- ◆ 傾斜地に建っている。(23区女性、30歳代)
- ◆ 地域の特性・環境から考え、たぶん、たぶん・・・と思っている。(23区男性、70歳以上)
- ◆ 神田川から離れていること、および周辺の地形から考えて浸水の可能性はない。(23区男性、60歳代)

9. 「ハザードマップを見て」

- ◆ 周りに危険がない。(多摩地区男性、70歳以上)
- ◆ ハザードマップを見て該当地域ではないということと、マンションの4階のため被害には遭わないのではないかと考えるため。(多摩地区女性、40歳代)
- ◆ ハザードマップ上大丈夫だから。(23区男性、60歳代)
- ◆ 近隣の浸水マップでは比較的安全な場所にある。(23区女性、50歳代)
- ◆ ハザードマップを拝見すると、住んでいる地域は被害が少なそうだし、マンションに住んでいるので安全だと思っています。(多摩地区女性、30歳代)

10. 「その他」

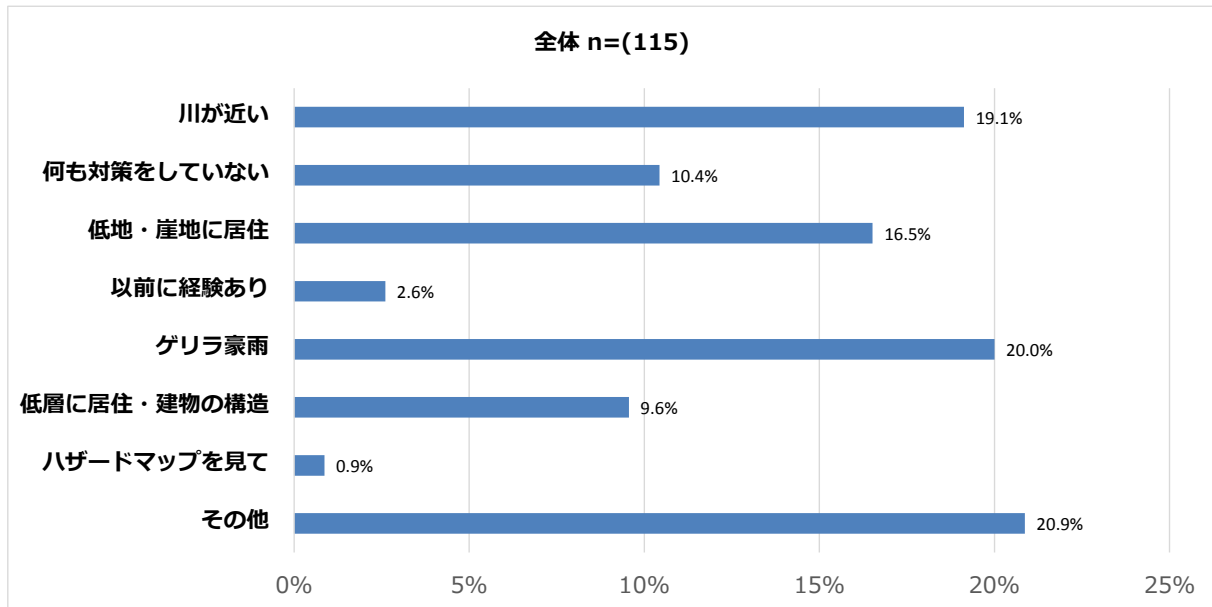
- ◆ 漠然とそう思う。(23区男性、30歳代)
- ◆ 雨の時の水の流れをみて。(23区男性、60歳代)
- ◆ 私の実家は墨田の下町ですので、もし荒川が堤防決壊などすると壊滅的なことになります。こういった取り組みのほかに土木関係の強化も考えてほしいです。(23区男性、60歳代)
- ◆ 避難場所がすぐ近くにあるので避難しやすい環境にあると思うので。(23区女性、30歳代)
- ◆ 杉並区の善福寺川が氾濫して、倉庫に水がたまりました。一瞬のうちに川の水がいっぱいになることも体験しました。あまりにも急でご近所の方々は知らないまま車がたくさん水に浸かりました。今、善福寺川は工事が行われています。(23区女性、60歳代)

(2) あまり安全でないと思う、安全でないと思う理由

「その他」を除くと「ゲリラ豪雨」の回答が最も多く、20.0%であった。次に「川が近い」が19.1%、「低地・崖地に移住」が16.5%と続いた。

また、最も少なかった回答は「ハザードマップを見て」が0.9%であった。

図 4.2.5(2) ご家庭での浸水対策の安全性に対する理由
(あまり安全でないと思う、安全でないと思う)



1. 「川が近い」

- ◆ 近くに荒川と隅田川が流れており、大きな台風が来たときなどは土手が水であふれそうになるから。(23区男性、30歳代)
- ◆ 近くに大栗川があり、決壊を心配している。(多摩地区男性、40歳代)
- ◆ すぐ近くに川があるので、豪雨が起これると非常に不安を感じる。23区女性、40歳代)
- ◆ 近所に玉川上水が流れている。ここに住んで40年近くになるが、まだ浸水した経験はない。但し、大雨の程度がひどく、万が一玉川上水が決壊するようなことになれば、浸水する可能性が無いとは言えないと思う。(多摩地区女性、50歳代)
- ◆ 川のそばの家で、浸水地域である。でも12階に住んでいるので、家の中は安全。ただ1～2階が浸水した場合、トイレ等使用できるのか？心配です。(多摩地区女性、40歳代)

2. 「何も対策をしていない」

- ◆ 市より配付された浸水危険度地域にて坂下で水の集まる地域らしく、それに対する対策も特になく、市からの働きかけ等も生活している上で特に無い為、実際に大雨が起きたらどうするのだろう、と常に不安ではあります。(多摩地区女性、30歳代)
- ◆ 賃貸マンションで、大家があまり管理業務に力をいれていない為、大雨による浸水対策などを何もしていない。(多摩地区女性、40歳代)
- ◆ なにもそなえていないから。(多摩地区女性、20歳代)
- ◆ 何も対策していないため。(23区男性、50歳代)
- ◆ アパートの1Fに住んでいるが、何も対策を行っていないので。(23区女性、40歳代)

3. 「低地・崖地に居住」

- ◆ アパートの1Fに住んでいるが、何も対策を行っていないので。(23区女性、60歳代)
- ◆ 江戸川区は川面のほうが高い。(23区男性、60歳代)
- ◆ マンションの4階に住んでいるので自宅が浸水することは考えられないが、マンション立地が坂の下の方にあり、大雨の時に機械式駐車場に浸水したことがある。これの対策は特に行っていないために、大雨予報がでると車を駐車場から出している。(23区男性、60歳代)
- ◆ 私の住んでいる地域は、海拔ゼロメートル地帯で水はけの悪い場所で、大雨に脆そうだから。(23区男性、20歳代)
- ◆ 川より低い位置に住んでいるから、大雨時ながれてきた水は低い位置にたまるから(23区男性、30歳代)

4. 「以前に経験あり」

- ◆ 地元の古老から町内会や宴会などのとき、以前浸水したときの話を聞くことがある。(23区男性、40歳代)
- ◆ 以前、排水溝が詰まって水浸しになったから。(23区女性、40歳代)
- ◆ 以前、集中豪雨の際、下水が逆流してトイレの水があと10センチくらいで溢れそうになったことがある。近所では、床下浸水した家もあったと聞いた。(23区女性、60歳代)

5. 「ゲリラ豪雨」

- ◆ 近くの古川がたまに氾濫すると聞いている為。たくさん雨が降っても大丈夫なようにと、改良工事中と聞きましたが、最近降る雨の量には対応していないと聞いたため。(23区男性、30歳代)
- ◆ 地盤はそれほど低くなくても、大雨には強風を伴うことが多いので、想像を絶する被害が生じる可能性もあり、決して安全とは思えません。(多摩地区女性、60歳代)
- ◆ 災害はいつやってくるか判らないから。(多摩地区男性、40歳代)
- ◆ 大雨になった時に、排水溝で水が流れきれず水があふれていることがあったため。(23区男性、40歳代)
- ◆ ゲリラ豪雨時、雨といの排水が降雨量に追い付かずベランダが冠水することがあるため。(多摩地区女性、40歳代)

6. 「低層に居住・建物の構造」

- ◆ 自宅付近脇が高台で、その水が流れ込む可能性あり。(23区男性、50歳代)
- ◆ (理由) 半地下家屋に近い状態であるからです。(23区男性、50歳代)
- ◆ 一階なので不安だ。(23区男性、40歳代)
- ◆ 自宅は半地下構造で、他所の住宅より先に浸水する事が必至であり、更なる対策(発電機・ポンプなど)が必要だと考えている。(23区男性、50歳代)
- ◆ 坂の途中だが上の方なので少しは安心だが、道路より低いいため、大雨が降ったら入り込んでくるのではないかと思う。また、地下室もあるので、心配。(23区女性、50歳代)

7. 「ハザードマップを見て」

- ◆ ハザードマップによると荒川または石神井川の水が向原幹線を通り最大 2m程浸水する模様。家の玄関の高さが 1.8m程なので浸水の可能性があると考えています。(23区男性、40歳代)

8. 「その他」

- ◆ 中川の堤防が低いと感じるため。(23区男性、40歳代)
- ◆ 荒川上流で大雨が降り、堤防が決壊したらポンプで処理しきれないと思う。(23区女性、40歳代)
- ◆ マンションのベランダ等の雨どいも排水量が限界をこすと、逆流したり噴射しているし、一人一人が掃除をしてくれればいいが、つながっているので、ゴミが流れてきたり不安。(多摩地区女性、30歳代)
- ◆ 大雨が降ってきたときに、自宅の雨どいのみで、大量の雨水を処理できるかが不安です。今は、道路も完全舗装されていまして、雨水は、道路に浸透せずに、側溝にダイレクトに流れ落ちます。側溝もあふれてきて、道路にあふれ出てきます。自宅の敷地にも、大量の雨水がたまってしまう恐れがあります。(多摩地区男性、70歳以上)
- ◆ 自宅の老朽化。(23区女性、40歳代)

4.3. 東京アメッシュについて

4.3.1. 東京アメッシュの利用方法

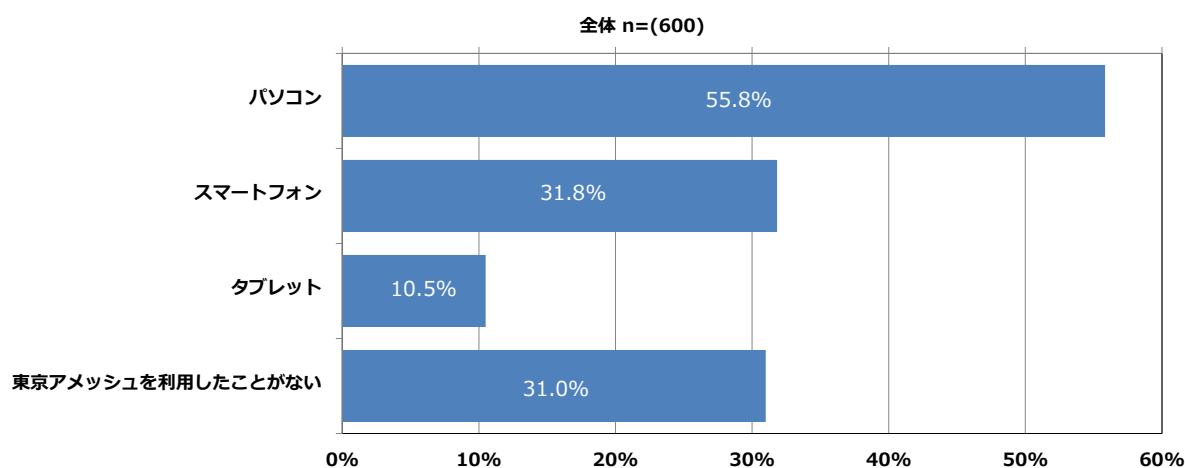
Q16. 「東京アメッシュ」は、パソコンやスマートフォンなどからご利用いただけます。

あなたは、「東京アメッシュ」を利用する時、何を使用してご覧になっていますか？以下の選択肢の中から、該当するものをいくつでもお選びください。（複数回答）

（１）全体

東京アメッシュを利用したことがある者のうち「パソコン」との回答が 55.8%で最も多く、次に「スマートフォン」が 31.8%であった。最も低かったのは「タブレット」で 10.5%であった。

図 4.3.1(1) 東京アメッシュの利用方法（全体）

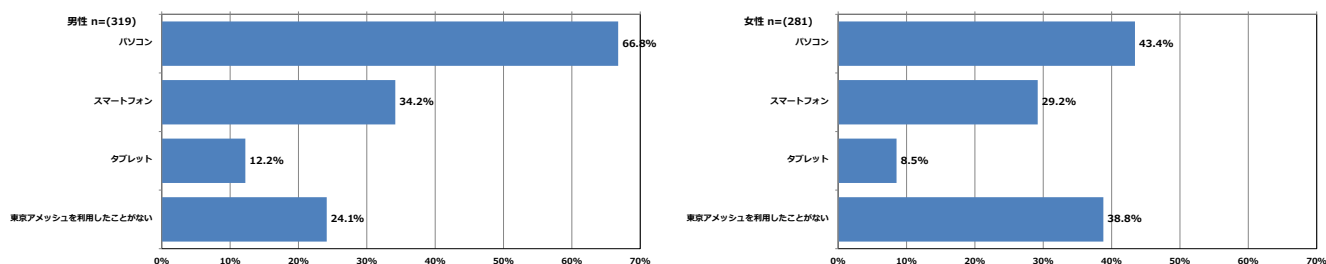


（２）性別

男女ともに「パソコン」との回答が最も多く男性は 66.8%、女性は 43.4%で男性の方が女性より 23.4 ポイント高くなった。

また、「東京アメッシュを利用したことがない」の回答は女性の方が多く、38.8%であった。

図 4.3.1(2) 東京アメッシュの利用方法（性別）

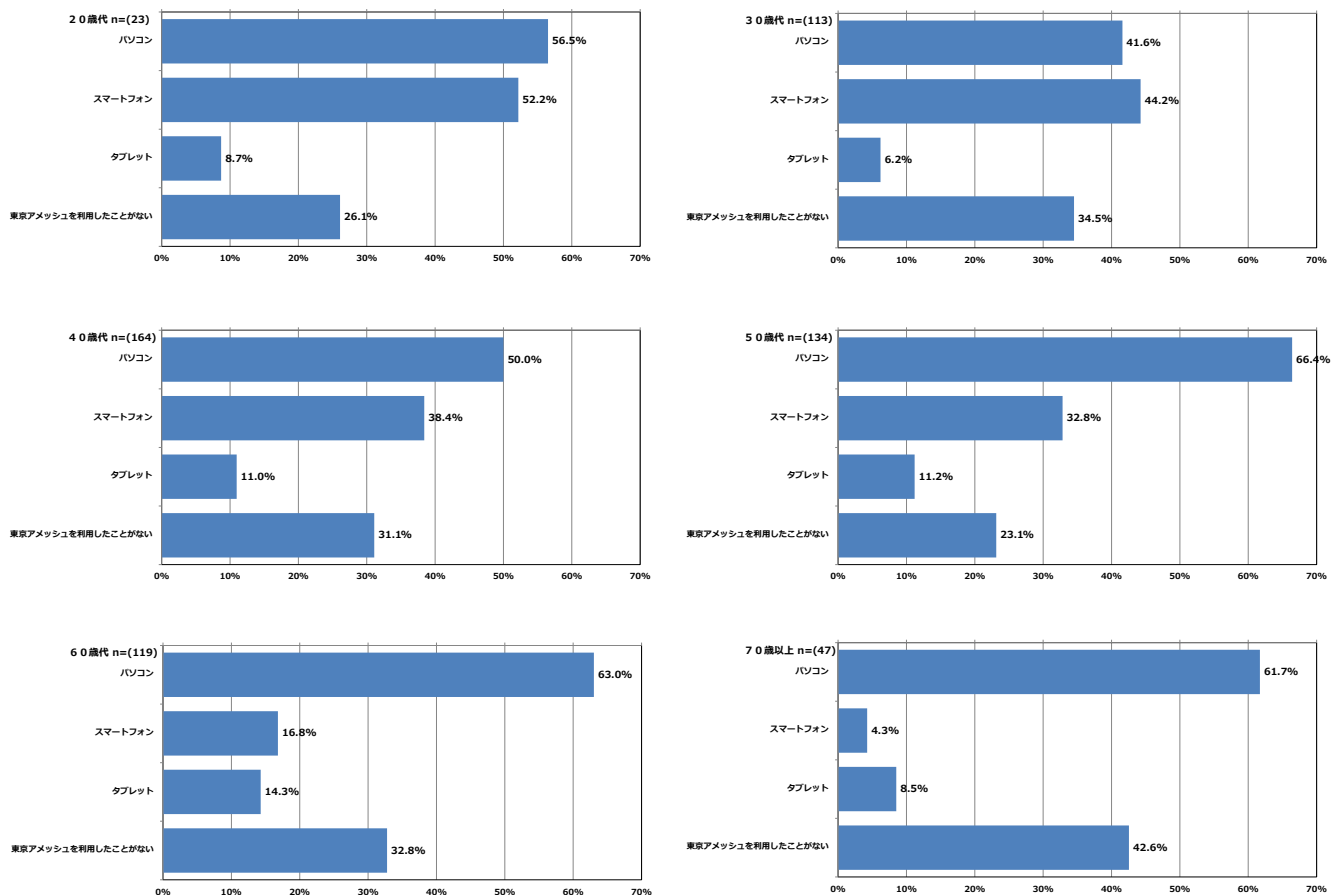


(3) 年齢別

30歳代は「スマートフォン」との回答が最も多く44.2%で、他の年代は「パソコン」が最も多く、50歳代66.4%、60歳代63.0%、70歳以上61.7%、20歳代56.5%、40歳代50.0%の順になった。

また、「東京アメッシュを利用したことがない」の回答は70歳以上が最も多く、42.6%であった。

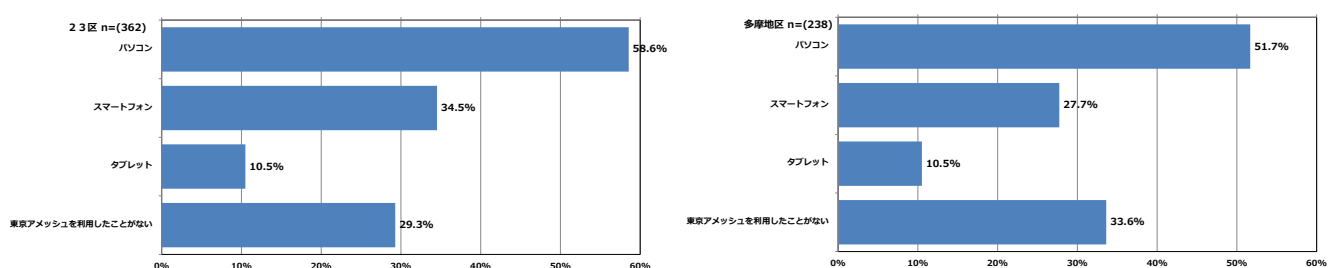
図 4.3.1 (3) 東京アメッシュの利用方法（年齢別）



(4) 地域別

23区、多摩地区ともに「パソコン」との回答が最も多く23区は58.6%、多摩地区は51.7%で23区の方が多摩地区より6.9ポイント高くなった。

図 4.3.1 (4) 東京アメッシュの利用方法（地域別）



4.3.2. 東京アメッシュをスマートフォンで利用した場合

Q17. 上記Q16で、「2」を選択した人におたずねします。

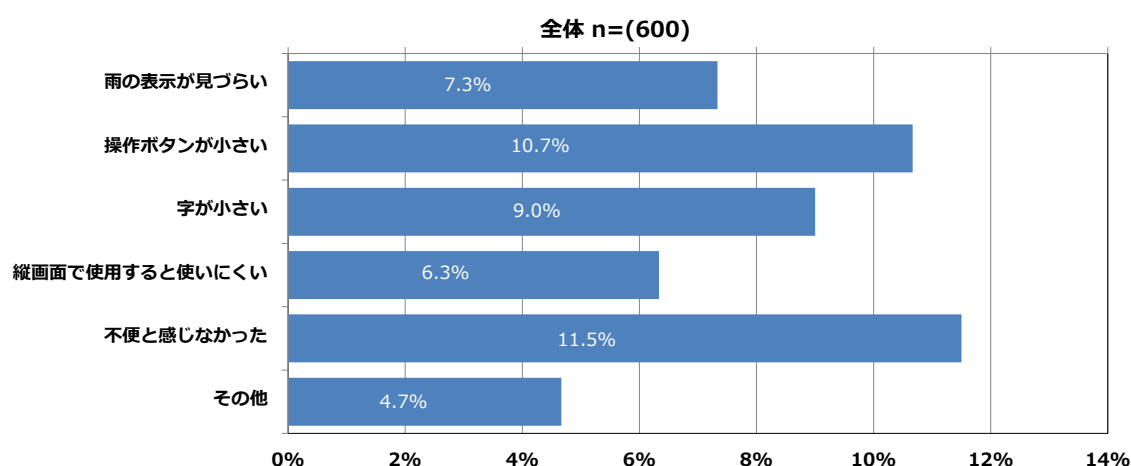
「東京アメッシュ」をスマートフォンで利用する際、不便と思ったことがありますか？

以下の選択肢の中から、該当するものをいくつでもお選びください。（複数回答）

（1）全体

「不便と感じなかった」との回答が最も多く 11.5%であった。以降「操作ボタンが小さい」が 10.7%、「字が小さい」が 9.0%と続き、「その他」を除いて「縦画面で使用する」と使いにくい」が 6.3%で最も少なかった。

図 4.3.2(1) スマートフォンを使用した場合（全体）

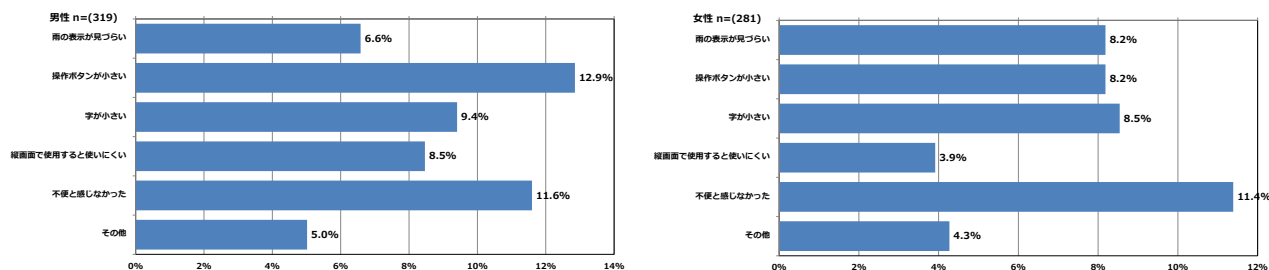


（2）性別

男性では「操作ボタンが小さい」が 12.9%、女性では「不便と感じなかった」が 11.4%で最も回答が多かった。

また、「その他」を除くと男性では「画面の表示がみづらい」が 6.6%、女性では「縦画面で使用する」と使いにくい」が 3.9%で最も回答が少なかった。

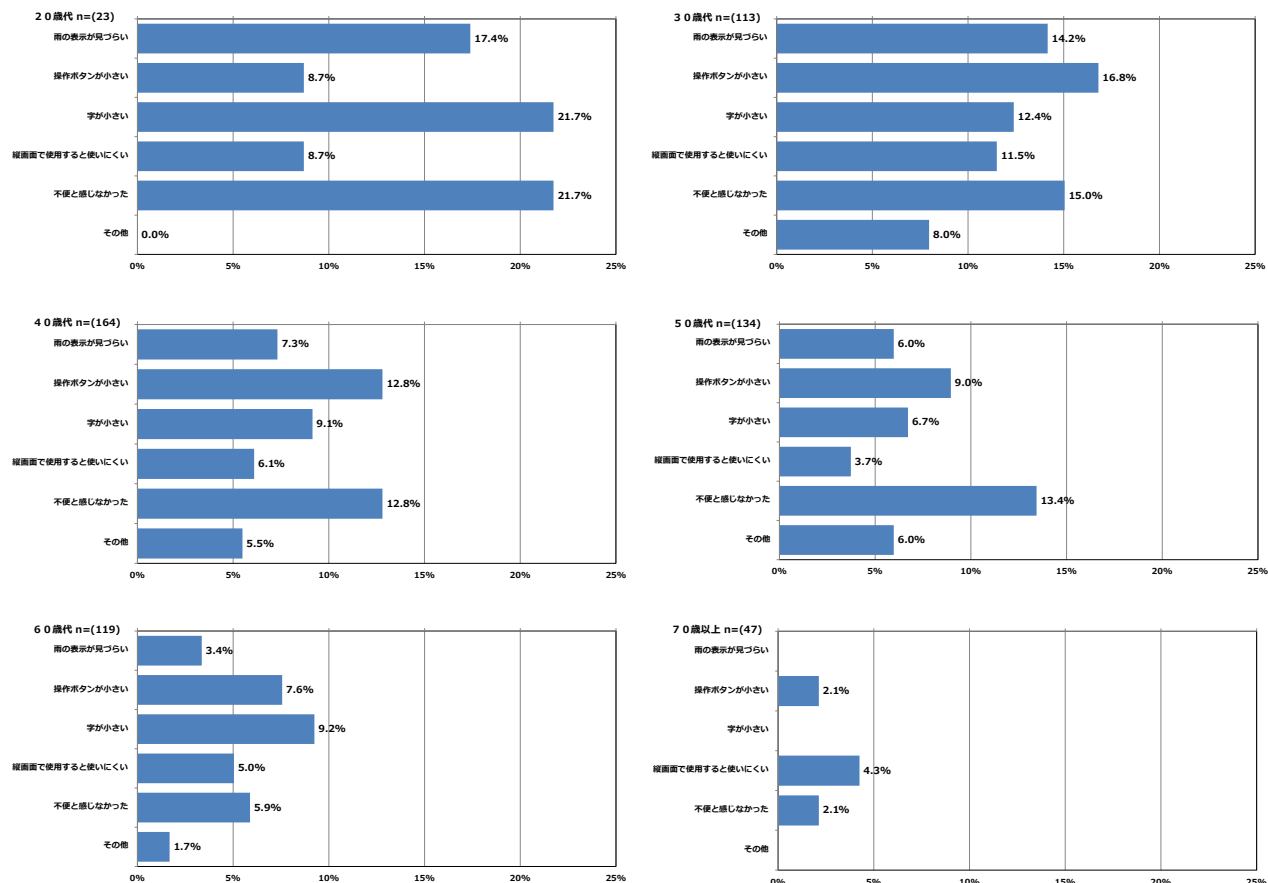
図 4.3.2(2) スマートフォンを使用した場合（性別）



(3) 年齢別

最も多かった回答は、20歳代が「字が小さい」、「不便と感じなかった」で21.7%、30歳代が「操作ボタンが小さい」で16.8%、40歳代が「操作ボタンが小さい」、「不便と感じなかった」が12.8%、50歳代が「不便と感じなかった」で13.4%、60歳代が「字が小さい」で9.2%、70歳以上が「縦画面で使用する使いにくい」が4.3%であった。

図 4.3.2(3) スマートフォンを使用した場合（年齢別）

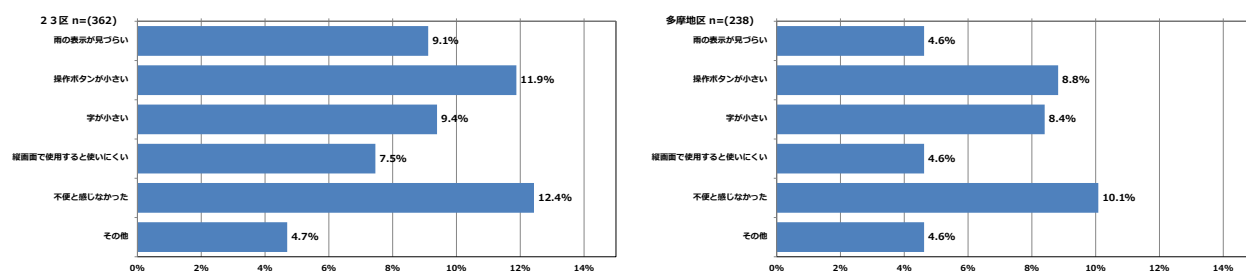


(4) 地域別

23区では全ての項目で多摩地区より回答が多くなった。

また、23区、多摩地区ともに「不便と感じなかった」との回答が最も多く23区は12.4%、多摩地区は10.1%で、23区の方が多摩地区より2.3ポイント高くなった。

図 4.3.2(4) スマートフォンを使用した場合（地域別）



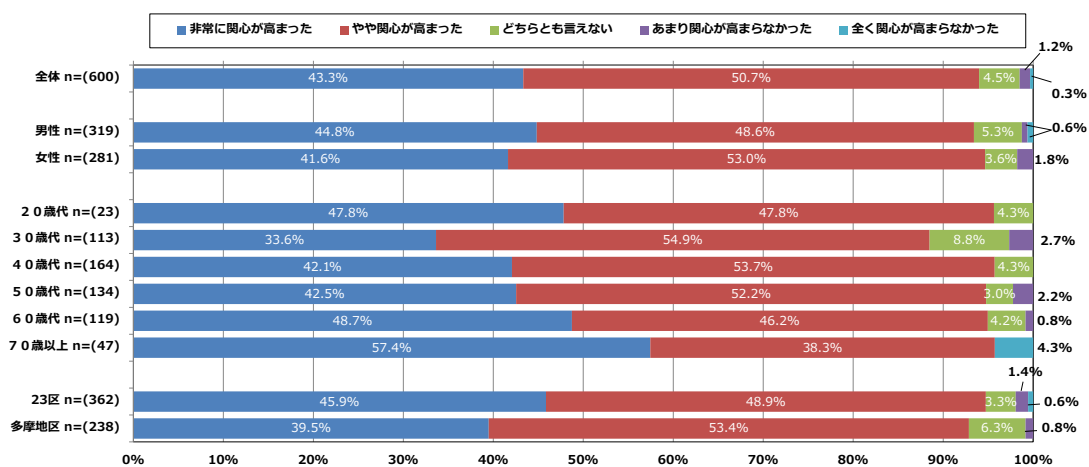
4.4. 下水道浸水対策の取組みに対する関心

Q18. 今回のアンケートを通じ、下水道の浸水対策の取組みに対する関心がどのようになりまし
たか？以下の中から該当する選択肢を一つだけお答え下さい。

- 全体の、94.0%が「関心が高まった（非常に関心が高まった、やや関心が高まった）」と考えている。
- 男女別にみると、「非常に関心が高まった」との回答は男性が 44.8%、女性が 41.6%となり、男性の方が女性より 3.2 ポイント高くなった。
- 年代別にみると、「非常に関心が高まった」との回答は、70 歳代以上が 57.4%で最も多く、最も少ないのは 30 歳代で 33.6%であった。
- 地域別にみると、「非常に関心が高まった」との回答が 2 3 区で 45.9%、多摩地区で 39.5%となり、2 3 区が 6.4 ポイント高くなった。
- 経年変化をみると、「非常に関心が高まった」との回答は、平成 28 年度調査が 43.3%と最も多く、平成 27 年度調査と比較すると 18 ポイント高くなった。

図 4.4 下水道浸水対策の取組みに対する関心

【平成 28 年度】



【経年】

